HP Operations Orchestration

Windows および Linux向け

ソフトウェアバージョン: 10.01

Central ユーザーガイド



ドキュメントリリース日: 2013 年 8 月 (英語版) ソフトウェアリリース日: 2013 年 8 月 (英語版)

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供 するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コン ビューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政 府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright© 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

AMDおよびAMD Arrowのシンボルは、Advanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Google™およびGoogle Maps™は、Google Inc.の登録商標です。

Intel®、Itanium®、Pentium®、Intel®およびXeon®は、Intel Coporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®、Windows NT®、Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。http://support.openview.hp.com

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスで きます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただ必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サ ポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access level.isp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLはhttp://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jspです。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本来、オンラインヘルプとしてWebブラウザーで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによっては正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

目次	4
『HP Operations Orchestration Central ガイド』にようこそ	6
主要なタスクとペルソナ	7
サンプルシナリオ	g
HP OO Central 内の移動	10
ダッシュボードの操作	17
システム構 成 のセット アップ	21
セキュリティのセットアップ – 役割	21
セキュリティのセット アップ – LDAP 認証	31
セキュリティのセットアップ – 内部 ユーザー	41
セキュリティバナーのセットアップ	46
セキュリティのセットアップ – LW SSO	49
トポロジのセットアップ – ワーカー	54
トポロジのセットアップ – 構成	59
ブラウザーの言語 の設 定	60
コンテンツパックの昇格	61
コンテンツパックの昇格 - 概要	61
コンテンツパックのデプロイ	64
コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ	68
コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ	71
コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ	74
フローライブラリの管 理	78
フローマップの表 示	85
コンテンツパックのテストとトラブルシューティング	88
フローの実 行と監 視	90
フローの実行と監視 - 概要	90
フローの実行	91
フロー実行のスケジューリング	99
フロー宝 行 の追 跡	116

フロ一実行の管理	122
フロー実 行 の表 示 のフィルタリング	128
フロー実 行 のテスト とトラブルシューティング	132
一般的なエラー	138
コマンバラインからの HP OO コマンバ の宝 行	144

『HP Operations Orchestration Central ガイド』にようこそ

HP OO Central は Web ベースのアプリケーションで、フローの昇格、フローの実行とスケジュール、システムの管理、フロー実行の結果データの抽出と分析に使用されます。

主要なタスクとペルソナ

Central で作業する主要なペルソナは、運用管理者とエンドユーザーです。ただし、初期のセットアップタスクのいくつかは、システム管理者によって実行されます。

運用管理者

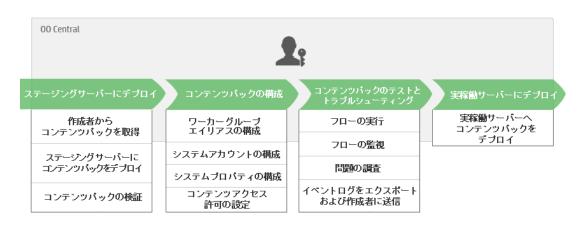


運用管理者は、HP OO の日々の運用を担当します。この中には、構成、メンテナンス、コンテンツパックの昇格、HP OO ユーザーのアクセス許可の設定などがあります。

運用管理者は、実稼働環境での障害のトラブルシューティングを行い、問題を解決するか、または(問題に応じて)システム管理者、HP サポート、フロー作成者に送ります。

運用管理者は、Central を使用して次のことを行います。

コンテンツパックの昇格 - 「コンテンツパックの昇格 - 概要」(61ページ)を参照してください。



• フローの実行と監視 -「フローの実行と監視 - 概要」(90ページ)を参照してください。



エンドューザー



エンドューザーはフローをトリガーし、監視します。エンドューザーは、権利が付与された HP OO フローに、Central 経由で直接アクセスするか、または別のアプリケーションの埋め込まれた Web UI 経由で間接的にアクセスできます。

エンドユーザーは、Central を使用して次のことを行います。

● フローの実行と監視 - 「フローの実行と監視 - 概要」(90ページ)を参照してください。

システム管理者



システム管理者は、HP OO のハードウェアとソフトウェアを担当します。システム管理者は、HP OO (Central および RAS) のインストールとパッチの適用を行い、システムの観点からのアプリケーションの正しい動作を担当し、CPU、メモリ、OS 環境などを扱います。

システム管理者は、Central を使用して Central 構成をセットアップします。

トポロジの構成 – 以下を参照してください。

「トポロジのセットアップ – ワーカー」(54ページ)

「トポロジのセットアップ – 構成」(59ページ)

セキュリティと認証の構成 – 以下を参照してください。

「セキュリティのセットアップ – 役割」(21ページ)

「セキュリティのセットアップ – 内部ユーザー」(41ページ)

「セキュリティのセットアップ – LDAP 認証」(31ページ)

「セキュリティのセットアップ – LW SSO」(49ページ)

「セキュリティバナーのセットアップ」(46ページ)

サンプルシナリオ



システム管 理者



運用管理者



フロー作成者

セットアップ

- Central のインストール後に、システム管理者がLDAP認証 (「セキュリティのセットアップーLDAP認証」(31ページ)を参照)を構成します。
- システム管理者がワーカーをワーカーグループに割り当てます。また、外部ワーカー用に
 "Windows" という新しいグループを作成します (see 「トポロジのセットアップ ワーカー」(54 ページ)を参照)。
- 運用管理者が、ベースコンテンツを Central サーバーにデプロイします (「コンテンツパックのデプロイ」(64ページ) を参照)。

昇格

- フロー作成者が Studio で新しいコンテンツパックを作成し、ファイルシステムにデプロイします。
- **運用管理者が、フロー作成者から新しいコンテンツパックのデプロイメントの準備ができたことを通知する電子メールを受け取ります。**
- 運用管理者が、新しいコンテンツパックを Central ステージングサーバーにデプロイします (「コンテンツパックのデプロイ」(64ページ)を参照)。
- 運用管理者が、コンテンツパック内のシステムアカウントに Central ユーザーアカウントをマッピングします (「コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ」(71ページ)を参照)。
- 運用管理者がコンテンツパック内のシステムプロパティをセットアップします(「コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ」(74ページ)を参照)。
- 運用管理者が、Windows エイリアスが自動的にワーカーグループに割り当てられたことを確認し、ほかのグループエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングします(「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照)。
- 運用管理者が、フローライブラリを見てすべてのフローがあることを確認し、フローを選択するとフローのメタデータが表示されることを確認します(「フローライブラリの管理」(78ページ)を参照)。
- 運用管理者がコンテンツパック内のフローのアクセス許可を設定します(「フローライブラリの管理」(78ページ)を参照)。

フローの実行と監視



運用管理者 がコンテンツパック内 のいずれかのフローをトリガーします (「フローの実行」(91ページ) を参照)。



運用管理者が[**実行**] ビューに移動して、フローステータスを確認します(「フロー実行の追跡」(116ページ)を参照)。



運用管理者は、必要に応じてフローを一時停止、再開、またはキャンセルします(「フロー実行の管理」(122ページ)を参照)。



運用管理者がフローの詳細を調べ、フローをテストして問題があるかどうかを確認します (「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照)。

コンテンツパックの更新



運用管理者が、コンテンツパックに問題があることを認識します。コンテンツパックが大きすぎるため、2つに分割したほうがいいと判断します。



運用管理者が、フロー作成者に電子メールを送信して、コンテンツパックを2つに分割するように依頼します。



フロー作成者がコンテンツパックを2つの小さなコンテンツパックに分割し、運用管理者に送信します。

最終デプロイメント



運用管理者が新しいコンテンツパックをステージングサーバーにデプロイし、問題がないことを確認します。



運用管理者がコンテンツパックを実稼働サーバーにデプロイします。

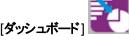
HP 00 Central 内の移動

HP OO Central は、4 つのワークスペースに分割されているため、同じ場所からエンドツーエンドのタスクを実行できます。 ワークスペースとは、同じエンドツーエンドのタスクグループに属するすべての画面を保持する単位です。

- ダッシュボードワークスペース システムの ROI と、分析されたフローの集約の表示に使用します。 運用管理者 ♣ の役割を持つユーザー用です。
- 実行ワークスペース フローの実行、実行の監視、実行のスケジューリング、実行のトラブルシューティングに使用します。エンドユーザー
 ・ または運用管理者
 ・ の役割を持つユーザーが使用できます。
- コンテンツワークスペース 新しいコンテンツのデプロイ、フローのアクセス許可の設定、構成アイテムのセットアップ、以前のバージョンのコンテンツパックへのロールバックなど、昇格タスクに使用されます。運用管理者 ♣️ の役割を持つユーザー用です。

• システムワークスペース – トポロジの構成、ユーザー、役割、LDAP 認証、、LW SSO、およびセキュリティバナーのセット アップに使用します。システム管理者 ■ の役割を持つユーザー用です。

ダッシュボードワークスペース



ボード] **ボ**タンをクリックして、ダッシュボード ワークスペースを表 示します。

このワークスペースには、システムに関する統計情報 (使用回数の多いフロー、結果の分布、実行時間など) と投資収益率に関する財務情報が表示されます。



実行ワークスペース

実行ワークスペース]

ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。

このワークスペースには、次のモジュールが含まれています。

• エクスプローラーの実行 – [エクスプローラーの実行] モジュールでは、運用管理者またはエンドユーザーは、実行中のフローおよび実行が終了したフローを監視できます。フロー実行の追跡、その進捗状況の監視、およびフロー実行に関する操作 (一時停止、再開、キャンセルなど)の実行を行うことができます。フローが失敗してトラブルシューティングを行う場合、実行をドリルダウンして詳細情報を表示できます。



• スケジューラー - [スケジューラー] モジュールでは、運用管理者はフロー実行のスケジュールを表示、作成、および変更できます。



コンテンツワークスペース

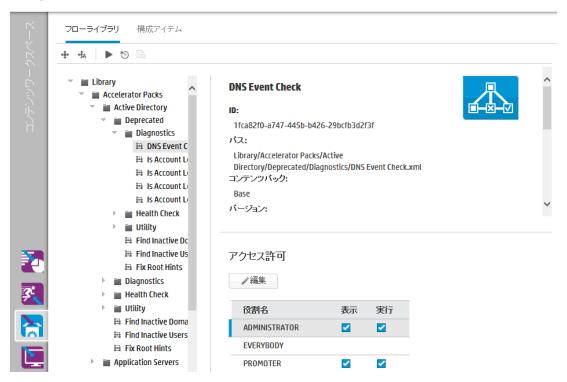
[**コンテンツワークスペース**] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。

このワークスペースには、次の2つのモジュールが含まれています。

• フローライブラリ – [フローライブラリ] には、デプロイされたフローが表示されます。ここから、運用管理者は、フローの実行またはスケジュール設定、新しいコンテンツのデプロイまたはロールバック、フローのメタデータの表示、コンテンツアクセス許可の設定、またはテスト用のフローの実行を行うことができます。







• 構成アイテム – [構成アイテム] モジュールでは、運用管理者は、環境に合うようにコンテンツパックのコンテンツを構成できます (グループエイリアスの実際のワーカーグループへのマッピングやコンテンツパック内のシステムアカウントの Central ユーザーアカウントへのマッピングなど)。



システムワークスペース

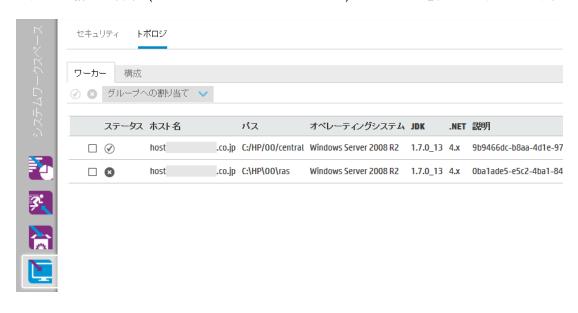
[**システムワークスペース**] **よう** ボタンをクリックして、システムワークスペースを表 示します。

このワークスペースには、次のタブが含まれています。

• セキュリティーシステム管理者は HP OO の役割をセットアップし、それらの役割を内部ユーザー、または LDAP、LW SSO などの認証システムのユーザーに適用できるようになります。



• トポロジ – システム管理者は、ワーカーグループの作成、ワーカーのこれらのグループへの割り当て、および構成の詳細(ロードバランサーホストのURLなど)のセットアップを行えるようになります。



ワークスペースの表示

特定の役割が割り当てられたユーザーのみが、その役割に関連するワークスペースにアクセスできるように HP OO の役割をセットアップできます。

たとえば、役割を次のようにセットアップできます。

- フローランナーの役割に属しているユーザーは、[実行ワークスペース] のみを表示できる。
- プロモーターの役割に属しているユーザーは、[コンテンツワークスペース] と[実行ワークスペース] を表示できる。
- システム管理者の役割に属しているユーザーは、[システムワークスペース] と[実行ワークスペース] を表示できる。

役割の詳細については、「セキュリティのセットアップ - 役割」(21ページ)を参照してください。

ダッシュボードの操作

ダッシュボードには、システムに関する統計情報 (使用回数の多いフロー、結果の分布、実行時間など)と投資収益率に関する財務情報が表示されます。

ダッシュボードには、ログインしたユーザーが表示できるすべてのフローに関する情報が表示されます。

ダッシュボードを使用すると、運用管理者はフローの統計情報を分析して、上位 10個のフローのパフォーマンスを比較することができます。

ダッシュボードに表示されるデータの期間は右上隅に表示されます。この期間は、直近の1日間、7日間、または30日間のいずれかに設定できます。

注: また、次のように API を使用してさまざまなダッシュボード タスクを実行 することもできます。

- 幅広い期間の中から期間を設定する
- より多くのフローを表示する
- データのソートやフィルタリングを行う

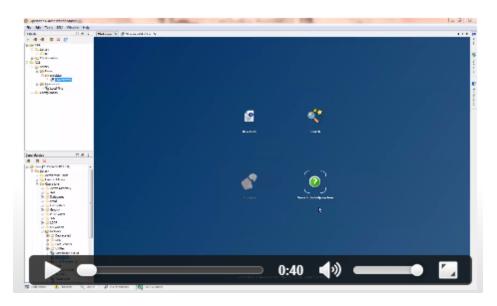
詳細については、『HP OO 10.01 API Guide』の「Dashboard」を参照してください。



ダッシュボードの解釈方法については、「参照情報」(19ページ)を参照してください。

注: [ダッシュボード] タブは、ダッシュボード の表示 のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。役割の設定については、「セキュリティのセットアップ - 役割」(21ページ)を参照してください。

フローで ROI 値が割り当 てられていない場合、合計 ROI 値は 0 になります。コンテンツの ROI 値の設定方法に関する動画を見る場合は、動作のサムネイルの下にある [**再生**] ボタンをクリックします。



実行する操作

ダッシュボード の期 間 のカスタマイズ

ダッシュボードでは、1日間 (直近の24時間)、1週間 (直近の7日間)、または30日間 (直近)の期間で、表示可能なすべてのフローに関する情報を表示することができます。

○1日間 ●7日間 ○30日間

期間を調整しない場合は、デフォルトで7日間に設定されます。

注: また、API を使用して期間を設定することもできます。この場合は、さらに幅広い期間を指定できます。詳細については、『HP OO 10.01 API Guide』を参照してください。

- 1. [**ダッシュボード**] ボタンをクリックして、ダッシュボード ワークスペースを表 示します。
- 2. 右上隅で、次の中から期間に含める日数のオプションを選択します。
 - 1-直近の1日間のフローの実行に関する情報を表示する

- 7-直近の7日間のフローの実行に関する情報を表示する
- 30 直近の30日間のフローの実行に関する情報を表示する

API による ROI 情報の抽出

ビジネスマネージャーに対する定期レポートの基本情報として、API により関連するROI 情報を抽出することができます。

詳細については、『HP OO 10.01 API Guide』の「Get Statistics」を参照してください。

参照情報

システム ROI



GUI アイテム	説明
期間	ダッシュボードのデータはすべて右上隅で指定した期間に該当するものです。
	期間を調整するには、次のいずれかを選択します。
	• 1日間 - 直近の1日のフローの実行に関する情報を表示する
	• 7日間 - 直近の7日間のフローの実行に関する情報を表示する
	• 30 日間 - 直近の30 日間のフローの実行に関する情報を表示する
合計 ROI	この値は、ログオンしたユーザーが表示できる定義された期間で実行されたすべてのトランジションのROI値の合計です。
貢献率を表す円グラフ	ROI に貢献した主要なフローが、それぞれの貢献率を表す円グラフに表示されます。

最も使用回数の多い10個のフロー



GUI アイテム	説明
結果の分布の棒グラフ	最も使用回数の多い10個のフローについて、それぞれの終了した実行数が表示されます。終了した実行とは、ステータスが成功、エラー、完了に失敗、診断済み、または操作なしの実行を意味します。これには、一時停止、実行中、キャンセル済み、キャンセルの保留中、または一時停止の保留中のフローは含まれません。
	棒グラフには、ステータスに応じた実行の相対的な分布が表示されます。ステータスは、次のように色分けされます。
	• 緑:完了-解決済み
	• 赤:完了-エラー
	• グレー: 完了 - 操作なし
	● 青: 完了 - 診断済み
	• 黄色: 完了できませんでした
	これらの色 は、[エクスプローラーの実 行] のステータスアイコンの 色 と同じです。
	ヒント 色分けされたステータスを識別するには、棒グラフの色の上にカーソルを置いてツールチップを表示します。
平均実行時間の棒グラフ	期間として設定された期間で終了した各フローの実行に基づいて、そのフローの平均時間が表示されます。
	棒 グラフにはフローの期間 が上 位 10 個 のほかのフローと対 比 する形 で表 示されます。
ROI 列	各フローのROI 値を表示します。
	コインの枚数は、上位 10 個のフローと比較した相対的な ROI スコアを表します。

システム構成のセットアップ



システム構成のセットアップは、HP OO のインストール後に、通常システム管理者によって実行されます。

セキュリティのセットアップ – 役割	21
セキュリティのセットアップ – LDAP 認証	31
セキュリティのセットアップ – 内部ユーザー	41
セキュリティバナーのセットアップ	46
セキュリティのセットアップ – LW SSO	49
トポロジのセットアップ – ワーカー	54
トポロジのセットアップ – 構成	59
ブラウザーの言語の設定	60

セキュリティのセット アップ - 役割

■ HP OO Central タスクへのアクセスは、役割ベースのアクセス制御 (RBAC) を使用して管理されます。 RBAC を使用すると、管理者は役割に基づいて HP OO ユーザーが実行できる操作を制御できます。

- **アクセス許 可**とは、ある作業を実行できるかどうかを事前に定義したものです。Central には役割に割り当てられるアクセス許可のセットが提供されています。
- **役割**とは、アクセス許可の集合です。役割はユーザーに割り当てることができます。

たとえば、フローの実行、スケジュールの表示、フローのスケジュール、実行の管理、およびレポートの作成を行うアクセス許可を持つフローマネージャーという役割を作成することができます。エンドューザーの役割では、フローを実行するアクセス許可はありますが、フローをスケジュールするアクセス許可はありません。役割をスケジュールのアクセス許可なしでセットアップした場合、この役割を使用しても、スケジューラーモジュールを表示することもできません。

利用できるアクセス許可が数多く用意されているため、各役割で表示できるWeb UI の部分を詳細に定義できます。管理者は、ユーザーの各グループに対して専用のUI エクスペリエンスを作成できます。これにより、エンドユーザーは Central を使用しても必要な情報しか表示できないため、システムに危害を及ぼす可能性は制限されます。

注: [役割] タブは、セキュリティ構成の管理またはセキュリティ構成の表示のアクセス許可を持つ 役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。役割を編集できるのは、セキュリティ構成の管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

役割をセットアップすると、それらの役割を内部ユーザーに割り当てるか、LDAP ユーザーにマッピングできます。

- 管理者はある役割を1つ以上のLDAP グループにマッピングし、これらのグループに割り当てられているLDAP ユーザーに、その役割のアクセス許可を割り当てることができます。
- 管理者は、ユーザー構成のセットアップ中に、役割を内部ユーザーに割り当てることができます。 詳細については、「セキュリティのセットアップ - 内部ユーザー」(41ページ)を参照してください。

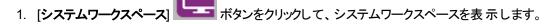
デフォルトで Central には、Studio の該当する役割に合わせて、ADMINISTRATOR と EVERYBODY の役割が含まれています。

注: 役割ベースのアクセス制御は、コンテンツアクセス許可とは異なります。データ (フローおよびフォルダー) へのアクセスを制限する場合、そのコンテンツのアクセス許可を構成する必要があります。これは、コンテンツパックの昇格の一環として実行されます。コンテンツアクセス許可については、「フローライブラリの管理」(78ページ)を参照してください。

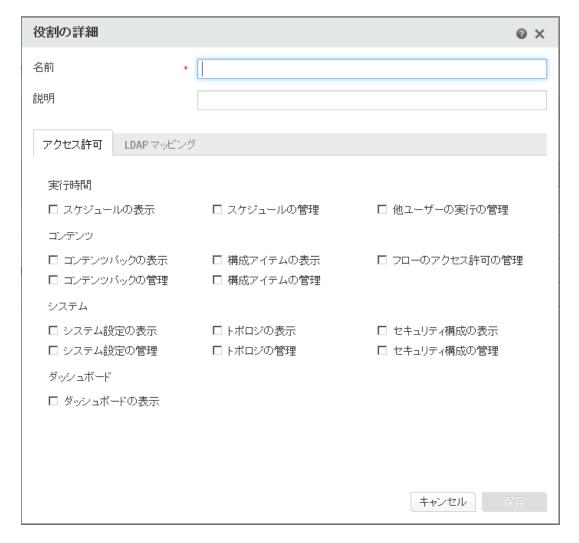
実行する操作

役割の作成

注: 役割を作成および編集するには、セキュリティ構成の管理のアクセス許可がある必要があります。



- 2. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 3. [追加] + ボタンをクリックします。



- 4. [**名前**] ボックスに、役割の一意の名前を入力します。役割名に使用できる文字数は、最大255文字です。
- 5. [**説明**] ボックスに、役割の説明を入力します。役割名に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
- 6. この役割に割り当てるアクセス許可の横にあるチェックボックスを選択します。アクセス許可は、4つの Central ワークスペースに従ってグループ化されます。ワークスペース内のどのアクセス許可も役割に割り当てられていない場合、この役割を持つユーザーはそのワークスペースに入ることができません。

実行時間

- **スケジュールの表示** スケジュールを表示するアクセス許可
- **スケジュールの管理** スケジュールを作成 および変 更 するアクセス許 可

- 他ユーザーの実行の管理 他ユーザーがトリガーした実行を変更するアクセス許可コンテンツ
- **コンテンツパックの表 示** コンテンツパックを表 示 するアクセス許 可
- **コンテンツパックの管理** コンテンツパックの変更、コンテンツのデプロイ、およびデプロイメントのロールバックを行うアクセス許可
- 構成アイテムの表示 構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を表示 するアクセス許可
- 構成アイテムの管理 構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を変更 するアクセス許可
- フローのアクセス許可の管理 コンテンツアクセス許可 (フローおよびフォルダー用)を変更する アクセス許可

システム

■ システム設定の表示 – 監視およびシステム情報のレポートを表示するアクセス許可

注: これらのレポートには、HP サポートの情報 が含まれています。

- /oo/reports/sysinfo にはシステム構成が表示されます
- /oo/monitoring はパフォーマンス監視 ダッシュボードです
- システム設 定の管理 REST API を使用してログレベルを構成するアクセス許可
- トポロジの表 示 ワーカーおよびワーカーグループを表 示 するアクセス許 可
- トポロジの管理 ワーカーを有効/無効にし、ワーカーグループを構成するアクセス許可
- セキュリティ構成の表示 セキュリティ構成を表示するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、および役割の表示が含まれます。
- セキュリティ構成の管理 セキュリティ構成を変更するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP 認証、LW SSO、および役割の変更が含まれます。

ダッシュボード

- **ダッシュボードの表示** ダッシュボードを表示 するアクセス許可
- 7. この役割をLDAP グループにマッピングするには、[**LDAP マッピング**] タブをクリックします。

詳細については、「役割をLDAPグループにマッピングする」を参照してください。

8. [保存]をクリックして、役割を保存します。

9. 認証機能を有効にするには、[**認証を有効にする**] チェックボックスを選択し、確認ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

[**認証を有効にする**] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

注: [認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

役割の編集

役割を編集するには、セキュリティ構成の管理のアクセス許可がある必要があります。

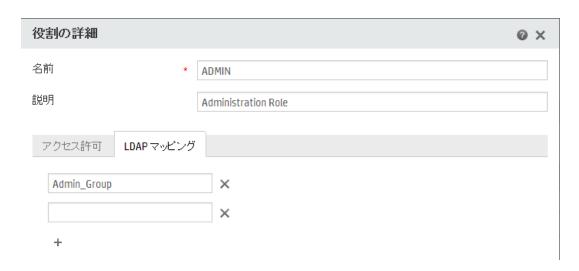
- 1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 2. 編集する役割を選択し、[編集] / ボタンをクリックします。
- 3. [役割の詳細]ダイアログボックスで必要な変更を行います。
- 4. [保存]をクリックします。

役割の削除

- 1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 2. 削除する役割を選択し、[削除] × ボタンをクリックします。
- 3. 確認ダイアログボックスで [はい] をクリックします。

役割のLDAP グループへのマッピング

- 1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 2. LDAP グループにマッピングする役割を選択し、「編集」 ✓ ボタンをクリックします。
- 3. [役割の詳細] ダイアログボックスで、[LDAP マッピング] タブをクリックします。



- 4. [追加] + ボタンをクリックして、新しいマッピングを追加します。
- 5. テキストボックスに、この役割をマッピングする LDAP グループの名前を入力します。
- 6. 必要に応じて、さらに[**追加**] + ボタンをクリックして、役割をほかのLDAP グループにマッピングします。
- 7. [保存]をクリックします。

LDAP グループに対 する役割のマッピングの削除

- 1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 2. LDAP グループへのマッピングを削除する役割を選択し、[編集] / ボタンをクリックします。
- 3. [役割の詳細] ダイアログボックスで、[LDAP マッピング] タブをクリックします。
- 4. 削除するマッピングの横にある[削除] × ボタンをクリックします。

注: マッピングを削除する場合、確認ダイアログボックスはありません。削除を中止する場合は、[キャンセル] をクリックして、保存せずに[役割の詳細]ダイアログボックスを閉じます。

5. [保存]をクリックします。

デフォルトの役割としての役割の割り当て

役割をデフォルトの役割として定義すると、役割が割り当てられていないすべてのユーザーにその役割が割り当てられます。

- 1. [セキュリティ] > [役割] を選択します。
- 2. デフォルトの役割として指定する役割を選択します。

3. [役割] ツールバーの[デフォルトの役割の設定] 🚨 ボタンをクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [役割]



GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。 このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、 すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[追加] + ボタン	[役割の詳細]ダイアログボックスが開き、新しい役割を追加できます。
[編集] / ボタン	[ユーザー構成] ダイアログボックスが開き、選択した役割を編集できます。
[削除] × ボタン	選択した役割を削除します。
[デフォルトの役割の 設定] ፪ ボタン	選択した役割をデフォルトの役割にします。
役割名	役割名を表示します。
説明	役割の説明を表示します。
LDAP マッピング	役割にマッピングされたグループを表示します。

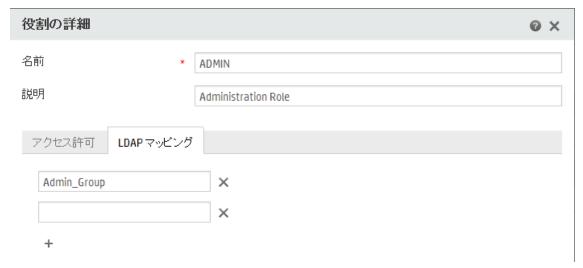
[役割の詳細] ダイアログボックス > [アクセス許可] タブ

役割の詳細		@ ×
名前 *		
説明		
アクセス許可 LDAPマッピング		
実行時間		
□ スケジュールの表示	□ スケジュールの管理	□ 他ユーザーの実行の管理
コンテンツ		
□ コンテンツバックの表示		□ フローのアクセス許可の管理
□ コンテンツバックの管理	□ 構成アイテムの管理	
システム		
□ システム設定の表示 □ システム設定の管理	□ トポロジの表示 □ トポロジの管理	□ セキュリティ構成の表示 □ セキュリティ構成の管理
 ダッシュボード		
□ ダッシュボードの表示		
		キャンセル

GUI アイテム	説明
名前	最大 255 文字の役割の名前を入力します。
説明	最大 255 文字の役割の説明を入力します。
実行時間	
スケジュールの表示	スケジュールを表示 するアクセス許 可
スケジュールの管理	スケジュールを作成 および変 更 するアクセス許 可
他ユーザーの実行の管理	ほかのユーザーがトリガーした実行を変更するアクセス許可
コンテンツ	
コンテンツパックの表 示	コンテンツパックを表示 するアクセス許 可

GUI アイテム	説明
コンテンツパックの管理	コンテンツパックの変更、コンテンツのデプロイ、およびデプロイメント のロールバックを行うアクセス許可
構成アイテムの表示	構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を表示 するアクセス許可
構成アイテムの管理	構成アイテム (グループエイリアス、システムアカウント、システムプロパティなど) を変更 するアクセス許可
フローのアクセス許可の管理	コンテンツアクセス許 可 (フローおよびフォルダー用)を変 更 するアクセス許 可
システム	
システム設定の表示	監視およびシステム情報のレポートを表示するアクセス許可。これらのレポートには以下のHPサポート用の情報が含まれています。
	• /oo/reports/sysinfo にはシステム構成が表示されます
	• /oo/monitoring はパフォーマンス監視 ダッシュボードです
システム設定の管理	REST API を使用してログレベルを構成するアクセス許可
トポロジの表示	ワーカーおよびワーカーグループを表示するアクセス許可
トポロジの管理	ワーカーを有効/無効にし、ワーカーグループを構成するアクセス許可
セキュリティ構成の表示	セキュリティ構成を表示するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP認証、および役割の表示が含まれます。
セキュリティ構成の管理	セキュリティ構成を変更するアクセス許可。この中には、内部ユーザー、LDAP認証、LW SSO、および役割の変更が含まれています。
ダッシュボード	
ダッシュボードの表示	ダッシュボードを表示するアクセス許可

[役割の詳細] ダイアログボックス > [LDAP マッピング] タブ



GUI アイテム	説明
[追加] + ボタン	テキストボックスが表示され、この役割から LDAP グループへのマッピングを 作成できます。
テキストボックス	テキストボックスに、この役割をマッピングする LDAP グループの名前を入力します。
[削除] × ボタン	横にあるテキストボックスのマッピングを削除します。

セキュリティのセット アップ - LDAP 認証

■ LDAP 認証 サービスを使用している場合、LDAP 構成を Central に追加できます。ユーザーは、システムを使用するために LDAP ユーザー名 とパスワードを入力する必要 があります。この変更は動的なもので、変更を適用するために Central を再起動する必要はありません。

管理者は、ユーザーが所属している LDAP グループに HP OO の役割をマッピングし、ユーザーがシステムで実行できる操作を制御できます。役割の詳細については、「セキュリティのセットアップ – 役割」 (21ページ)を参照してください。

LDAP サービスに対して複数のホストとポートを構成して、フェールオーバーをサポートすることをお勧めします。Central では、最初に構成された LDAP ホストへの接続を試みます。その接続が失敗すると、Central は2番目のLDAP ホストへの接続を試みます。

LDAP 接続はバインドされていません。 つまり、 ある LDAP ホスト がダウンしても、 Central はリストの次のホストに移動するだけです。 Central を再起動する必要はありません。

注: LDAP ホストが長期間 ダウンする場合、そのホスト情報を LDAP 構成 から削除 することをお勧めします。 Central ではこのホストへの接続を試み、このホストが動作しない場合、3 秒後に次のホストへの接続を試みます。 最初の LDAP 構成を削除することで、この遅延を回避できます。

注: LDAP サービスがない場合、HP OO のユーザー名 とパスワードを使用してログインする内部 ユーザーをセット アップできます。 このオプションの詳細 については、「セキュリティのセット アップ - 内部 ユーザー」(41ページ)を参照してください。

ユーザー認証機能なして Central を実行することもできます。 すべての Central ユーザーは "anonymous" として識別され、システムで認証が求められません。 すべての Central ユーザーは、システム内ですべての操作 (トリガー、コンテンツ管理、システム構成など) を行うフル管理者アクセス権限を持ちます。

注: [LDAP] タブは、セキュリティ構成の管理またはセキュリティ構成の表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。LDAP認証を編集できるのは、セキュリティ構成の管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

LDAP ユーザーと内部ユーザーの両方に同じユーザー名が割り当てられている場合、Central は LDAP ユーザーに関連付けられます。

注: HP OO 10.00 と以前のバージョンでの LDAP の構成の比較については、『HP OO 10.00 リリースノート』を参照してください。

実行する操作

LDAP 認証構成の追加

1. [システムワークスペース]



ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。

2. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。

セキュリティ トボロジ 				
□ 認証を有効にする				
役割 LDAP 内部:	ユーザー SSO セキュリティバナー			
接続 ホスト:	16.55.222.71;16.55.222.80	ポート:	* 389	▽ セキュリティで保護 されたチャンネル
ユーザー				
ユーザー DN:	ou=people,dc=devlab,dc=ad;ou=peop	ユーザーフィルター:	* (I(uid={0})(sAMAccountName={0}))	□ ユーザーのサブ検 索範囲
ユーザー ID 属性: *	uid	ユーザー共通名属 性:	cn	
特権を持つユーザ ーの DN:	uid=john,ou=people,dc=devlab,dc=ad	特権を持つユーザ ーのパスワード:	••••	
グループ				
グループ DN: *	ou=groups,dc=devlab,dc=ad;ou=grou	ユーザー DN 別グル ープ化フィルター:	* ((member={0})(uniquemember={0}))	□ グループのサブ検 索範囲
グループ名属性: *	cn			
接続テスト				
ユーザーID: user1	構成テスト			
				削除保存

3. [**ホスト**] ボックスに、LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。複数のLDAP ホストがある場合は、区切り文字として ";" を使用します。フェールオーバーをサポートするために、複数のLDAP ホストを構成することをお勧めします。

例:16.55.222.71;16.55.222.80

注: Central では、リストの最初のLDAP ホストへの接続を試みます。その接続が失敗すると、区切り文字の後にある2番目のLDAP ホストへの接続を試みます。

4. [ポート] ボックスに、LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は0~64435である必要があります。複数のLDAP ホストがある場合は、区切り文字として";"を使用します。

例:389;636

ヒント: 規則では、セキュリティで保護されたポートに 636 を使用し、セキュリティで保護されていないポートには 389 を使用します。 ただし、これは変わる可能性があります。

- 5. **[セキュリティで保護されたチャンネル]** チェックボックスを選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。
- 6. [ユーザー DN] ボックスに、ユーザーに使用する識別名を入力します。複数のユーザー DN がある場合は、区切り文字として";"を使用します。

例: ou=people, dc=devlab, dc=ad; ou=people, dc=devlab, dc=com

7. [ユーザーフィルター] ボックスに、ユーザーの表示をフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。

提供されるデフォルトは (|(uid={0})(sAMAccountName={0})) です。

このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。

共通のデフォルト構成の例:

実装	フィルター
Sun ONE	(&(objectclass=person)(uid={0}))
Novell	
OpenDS	
Open LDAP	
Active Directory	(&(objectclass=user)(sAMAccountName={0}))

注: このフィルターでは、{0} には対応するユーザー ID が想定されています。

8. ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックスを選択します。

注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。

9. [ユーザー ID 属性] ボックスに、一意なユーザー ID を持つ属性を入力します。

例: uid

注: ほとんどのLDAP 実装では、uid がデフォルトです。Active Directory では、sAMAccountName がデフォルトになります。

10. (オプション) [ユーザー共通名属性] ボックスに、画面に表示されるユーザー名を入力します。このフィールドに何も入力しなければ、デフォルトでユーザー ID が表示されます。

注: ほとんどの LDAP 実装では、cn がデフォルトです。

11. [グループ DN] ボックスに、グループに使用する識別名を入力します。複数のDN がある場合は、区切り文字として";"を使用します。

例:ou=groups,dc=devlab,dc=ad;ou=groups,dc=devlab,dc=com

12. [ユーザー DN 別グループ化フィルター] ボックスに、グループの表示をフィルタリングするための検索 フィルターパラメーターを入力します。これは、指定されたユーザーがメンバーになっているグループ をフィルタリングします。このフィルターは各グループ DN に適用されます。

提供されるデフォルトは (|(member={0})(uniquemember={0})) です

このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass 属性を含めることを強くお勧めします。

共通のデフォルト構成の例:

実装	フィルター
Sun ONE	(&(objectclass=groupofuniquenames)(uniquemember={0}))
OpenDS	
Active Directory	(&(objectclass=group)(member={0}))
Open LDAP	(&(objectclass=groupofnames)(member={0}))
Novell	objectclass は通常、group、groupofnames、 または groupofuniquenames です。
	メンバー属性は通常、member または uniquemember です。

13. グループフィルターを再帰的に実行する場合、[グループのサブ検索範囲] チェックボックスを選択します。

注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。

14. [グループ名 属性] ボックスに、UI に表示されるグループの名前を含む属性を入力します。

注: ほとんどのLDAP 実装では、cn がデフォルトです。

15. (オプション) LDAP で検索機能を持つ特権ユーザーが許可される場合、[特権を持つユーザーの **DN**] ボックスにユーザー DN を入力します。

例: uid=john,ou=people,dc=devlab,dc=ad

注: このような特権を持つユーザーの正確な DN を使用してください。

16. (オプション) LDAP で検索機能を持つ特権ユーザーが許可される場合、[特権を持つユーザーのパスワード] ボックスにパスワードを入力します。

注:このような特権を持つユーザーの正確なパスワードを使用してください。

17. 構成をテストするには、[接続テスト] セクションにユーザー ID を入力し、[構成テスト] ボタンをクリックします。 接続が成功すると、[接続テスト] セクションにユーザーが所属するグループとユーザーの詳細が表示されます。

以下の例では、[接続テスト] セクションの最初の行で、ユーザーが oo 2 および oo2 のグループに所属していることが示されています。2番目の行には、ユーザーID、ユーザー共通名、ユーザーの電子メールアドレス、およびユーザー属性が表示されています。



- 18. [保存] をクリックします。
- 19. 認証機能を有効にするには、[**認証を有効にする**] チェックボックスを選択し、確認ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

[**認証を有効にする**] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたは LDAP ユーザーがいる場合のみです。

注: [認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

LDAP 認証構成の編集

1. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。

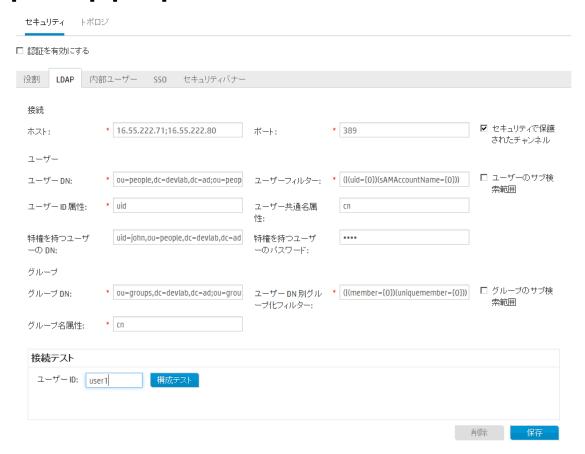
- 2. 必要な変更を入力します。
- 3. 構成をテストするには、ユーザー ID を入力し、[構成テスト] ボタンをクリックします。接続が成功すると、[接続テスト] セクションにユーザーが所属するグループとユーザーの詳細が表示されます。
- 4. 保存する前に、左上隅の構成名の横にあるチェックボックスを選択して、構成を有効にします。
- 5. [保存]をクリックします。

LDAP 認証構成の削除

- 1. [セキュリティ] > [LDAP] を選択します。
- 2. 画面の右下隅にある[削除]ボタンをクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [LDAP]



GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
ホスト	LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。複数の LDAP ホストがある場合は、区切り文字として";"を使用します。 例: 16.55.222.71;16.55.222.80
ポ − ト	LDAP サーバーのポート番号を入力します。この値は0~64435である必要があります。複数のLDAP ホストがある場合は、区切り文字として";"を使用します。
セキュリティで保護された チャンネル	[セキュリティで保護されたチャンネル] チェックボックスを選択して、セキュリティで保護されたトランスポートレイヤー接続をサポートします。
ユーザー DN	ユーザーに使用する識別名を入力します。複数のLDAPホストがある場合は、区切り文字として";"を使用します。 例: ou=people,dc=devlab,dc=ad;ou=people,dc=devlab,dc=com

GUI アイテム	説明		
ユーザーフィルター	ユーザーの表示をフィルタリングするための検索フィルターパラメーターを入力します。このフィルターは、[ユーザー DN] ボックスに入力したそれぞれのユーザー DN に適用されます。		
	提供されるデフォルトは ((uid={ す。	0})(sAMAccountName={0}))で	
	このフィルターは非常に一般的なものであるため、デフォルト値が機能しても、変更することをお勧めします。フィルターに objectclass属性を含めることを強くお勧めします。		
	共通のデフォルト構成の例:		
	実装	フィルター	
	Sun ONE	(&(objectclass=person)	
	Novell	(uid={0}))	
	OpenDS		
	Open LDAP		
	Active Directory	<pre>(&(objectclass=user) (sAMAccountName={0}))</pre>	
	注 : このフィルターでは、{0} には対応するユーザーID が想定されています。		
[ユーザーのサブ検索範囲] チェックボックス	ユーザーフィルターを再帰的に実行する場合、このチェックボックスを 選択します。		
	注: 再帰的な検索が不要な場合、このチェックボックスの選択はお勧めしません。		
ユーザー ID 属性	一意なユーザーID を持つ属性を入力します。 例: uid		
	注: ほとんどの LDAP 実装では、 Directory では、sAMAccountNam		

GUI アイテム	説明
ユーザー共通名属性	(オプション) 画 面 に表 示 されるユーザー名 を入 力します。このフィールドに何も入 力しなければ、デフォルトでユーザー ID が表 示 されます。
	注: ほとんどのLDAP 実装では、cn がデフォルトです。
特権を持つユーザーの DN	(オプション) LDAP で検索機能を持つ特権ユーザーが許可される場合、[特権を持つユーザーの DN] ボックスにユーザー DN を入力します。
	例:uid=john,ou=people,dc=devlab,dc=ad
	注: このような特権を持つユーザーの正確な DN を使用してください。
特権を持つユーザーのパス ワード	(オプション) LDAP で検索機能を持つ特権ユーザーが許可される場合、[特権を持つユーザーのパスワード] ボックスにパスワードを入力します。
	注 : このような特権を持つユーザーの正確なパスワードを使用 してください。
グループ DN	グループに使用する識別名を入力します。複数のLDAP ホストがある場合は、区切り文字として";"を使用します。
	例: ou=groups,dc=devlab,dc=ad;ou=groups,dc=devlab,dc=com

GUI アイテム	説明	
ユーザー DN 別 グループフィ ルター	を入力します。これは、指 ループをフィルタリングします されます。 提供されるデフォルトは (す このフィルターは非常に一	
	実装	フィルター
	Sun ONE OpenDS	<pre>(& (objectclass=groupofuniquenames) (uniquemember={0}))</pre>
	Active Directory	<pre>(&(objectclass=group)(member= {0}))</pre>
	Open LDAP	<pre>(&(objectclass=groupofnames) (member={0}))</pre>
	Novell	objectclass は通 常、group、groupofnames、または groupofuniquenames です。
		メンバー属性は通常、member または uniquemember です。
[グループのサブ検索範囲] チェックボックス	グループフィルターを再帰的に実行する場合、このチェックボックスを 選択します。	
	注: 再帰的な検索が不はお勧めしません。	・要な場合、このチェックボックスの選択
グループ名属性	UI に表示されるグループの名前を含む属性を入力します。	
	注: ほとんどのLDAP 実装では、cn がデフォルトです。	
接続テスト - ユーザー ID	をクリックします。 接続が成	ーザー ID を入力し、[構成テスト] ボタン な功すると、[接続テスト] セクションにユー ユーザーの詳細が表示されます。

セキュリティのセット アップ - 内部ユーザー

型 外部認証システム (LDAP など) を使用する代わりに、Central で内部ユーザーをセットアップできます。内部ユーザーは、HP OO のユーザー名とパスワードを使用してログインし、外部認証を必要としません。

管理者は、役割をユーザーに割り当てることによって、ユーザーがシステムで実行できる操作を制御できます。役割の詳細については、「セキュリティのセットアップ – 役割」(21ページ)を参照してください。

注: [内部ユーザー] タブは、セキュリティ構成の管理またはセキュリティ構成の表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。ユーザーを編集できるのは、セキュリティ構成の管理のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合のみです。

□ 認証を有効にする



LDAP ユーザーと内部ユーザーの両方に同じユーザー名が割り当てられている場合、Central は LDAP ユーザーに関連付けられます。

実行する操作

ユーザーの追加

- 1. [システムワークスペース] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
- 3. [追加] + ボタンをクリックします。
- 4. 次のように内部ユーザーの詳細を入力します。



- a. [ユーザー名] ボックスに、一意なユーザー名を入力します。ユーザー名に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
- b. [パスワード] と[パスワードの確認] の両方のボックスに、パスワードを入力します。パスワード に使用できる文字数は、最大 255 文字です。
- c. このユーザーに割り当てる各役割の横にあるチェックボックスを選択します。 複数の役割を ユーザーに割り当てることができます。

注: 複数の役割をユーザーに割り当てると、ユーザーはこれらの割り当てられた役割のすべてのアクセス許可にアクセスできるようになります。 アクセス許可 の少ない役割 があっても、このユーザーのほかの役割内にあるアクセス許可へのアクセスが制限されることはありません。

- 5. [保存]をクリックして、新しいユーザーを保存します。
- 6. 認証を有効にするには、[認証を有効にする] チェックボックスを選択し、確認ダイアログボックスで

[OK] を選択します。

[**認証を有効にする**] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存の内部ユーザーまたはLDAPユーザーがいる場合のみです。

注: [認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

ユーザーアカウントの編集

- 1. 「**システムワークスペース**] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
- 3. 編集するユーザーの横にあるチェックボックスを選択し、[編集] / ボタンをクリックします。

注:[編集] ボタンが有効になるのは、1人のユーザーを選択した場合のみです。

- 4. [ユーザー構成] ダイアログボックスで必要な変更を行います。
- 5. [保存]をクリックします。

ユーザーの削除

- 1. [セキュリティ] > [内部ユーザー] を選択します。
- 2. 削除する1人以上のユーザーを選択し、[削除] × ボタンをクリックします。

注: [削除] ボタンが有効になるのは、少なくとも1人のユーザーを選択した場合のみです。

3. 確認ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

注: ユーザーが自分自身のアカウントを削除することはできません。

参照情報

[セキュリティ] > [内部ユーザー]

□ 認証を有効にする

役割 LDAP 内部ユーザー	SSO セキュリティバナー	
+ / ×		
ユーザー名	役割	
□ User1	EVERYONE	
☐ User2	ADMIN	

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。 このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[追加] + ボタン	[内 部 ユーザーの詳 細] ダイアログボックスが開き、新しいユーザーを追加できます。
[編集] / ボタン	[内 部 ユーザーの詳 細] ダイアログボックスが開き、選択したユーザーを編集できます。
[削除] × ボタン	選択したユーザーを削除します。
ユーザー名	ユーザー名を表示します。
役割	ユーザーに割り当てられた役割を表示します。

[内部ユーザーの詳細] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
ユーザー名	最大 255 文字の一意なユーザー名を入力します。
パスワード	最大 255 文字のパスワードを入力します。
パスワードの確認	確認のために再度パスワードを入力します。
役割	このユーザーに割り当てる各役割の横にあるチェックボックスを選択します。 複数の役割をユーザーに割り当てることができます。
保存	クリックしてユーザーを保存します。

セキュリティバナーのセット アップ

■ セキュリティバナーをログオン画 面 の前 に表 示 するように構 成 することができます。 このバナーは、セキュリティルールやセキュリティ上 の問題 についてユーザーに通 知 する場 合 に役 立ちます。

たとえば、「実稼働環境にログオンしようとしています。当システムの管理ルールを理解していないユーザーはログオンする前に必要なトレーニングを受けてください」というバナーを作成することができます。

セキュリティバナーを有効にすると、セキュリティバナーがログオン画面の前にポップアップダイアログとして表示されます。 続行するには、ユーザーが [**OK**] ボタンをクリックする必要があります。

注: [セキュリティバナー] タブは、セキュリティ構成の管理またはセキュリティ構成の表示のアクセス 許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。バナーを編集できるのは、 セキュリティ構成の管理のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合のみです。

セキュリティ ト	トポロジ	
☑ 認証を有効にする		
役割 LDAP	内部ユーザー SSO セキュリティバナー	
☑ 有効に する		
バナー:	Security banner text	
	[ログオン] ベージに表示されるテキスト (最大 2000 文字) 保存	

実行する操作

セキュリティバナーの追加

- 1. 「**システムワークスペース**」 ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。

- 3. [有効にする] チェックボックスを選択します。
- 4. [**バナー**] テキストボックスに、バナーに表示するテキストを入力します。このテキストは最大 2000 文字です。
- 5. [保存]をクリックして、バナーを保存します。

セキュリティバナーの編集

- 1. [**システムワークスペース**] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。
- 3. [バナー] テキストボックスで必要な変更を行います。
- 4. [保存]をクリックします。

セキュリティバナーの削除

[**有効にする**] チェックボックスをクリアして、[**バナー**] テキストボックスのテキストを削除しない場合は、このテキストを保存して後で使用することができます。

- 1. [**システムワークスペース**] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [セキュリティバナー] を選択します。
- 3. [有効にする] チェックボックスをクリアします。
- 4. [保存]をクリックします。

参照情報

[セキュリティ] > [セキュリティバナー]

 セキュリティ トポロジ

 役割 LDAP 内部ユーザー SSO セキュリティバナー

 I 有効に する

 パナー:

 「ログオン]ページに表示されるテキスト(最大 2000 文字)

 保存

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。 このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
[有効にする] チェック ボックス	セキュリティバナーを有効にしてログイン時に表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。
[パナー] テキスト ボックス	セキュリティバナーのテキストを入力します。このテキストは最大 2000 文字です。
保存	クリックすると、セキュリティバナーが保存されます。

セキュリティのセットアップ - LW SSO

■ Lightweight SSO (LW SSO) 経由で、HP Operations Orchestration のシングルサインオン (SSO) をセットアップできます。LW SSO は、さまざまな HP アプリケーションに対して、1 つの認証を使用してシングルサインオンを有効にする HP ソリューションです。

LW SSO は、Web ブラウザーからアクセスされる HP 製品間で Cookie を共有します。結果として、ユーザーが LW SSO が有効な別の HP 製品の Web クライアント (SM Web クライアントや BSM Web クライアントなど) にログオンする場合、このユーザーは、HP OO Central ログオン画面をバイパスして、直接 HP OO Central アプリケーションに入ることができます。

この構成の前提条件:

- シングルサインオンを使用するすべての HP 製品で、LW SSO 機能を有効にする必要があります。
- ほかの HP 製品 のユーザーのログオン資格情報 は、HP OO ユーザーアカウント のログオン資格情報 とー 致する必要 があります。

たとえば、BSM が HP OO と統合されている場合、BSM にログインするユーザーは、HP OO 内にも存在する必要があります(LDAP ユーザーまたは内部ユーザー)。

LW SSO 構成を保存すると、変更がすぐ有効になるため、サーバーを再起動する必要はありません。

クラスター構成内のすべてのノードは、10分間隔でその構成をデータベースから定期的に更新します。サーバーが1台の場合、そのノードは同じ10分間隔でその構成をデータベースから更新します。

LW SSO を採用している別のアプリケーションを HP OO 10.00 に接続している場合、次の形式を使用して HP OO の接続 URL を指定する必要があります。

cprotocol>://<FQDN>:<portNumber>

例: http://lab.lab:8080

注: LW SSO の有効化手順は、ほかのHP製品では異なる場合があります。各 HP製品の対応するドキュメントを参照してください。

たとえば、一部のアプリケーションでは、接続 URL は、

注: [SSO] タブは、セキュリティ構成の管理またはセキュリティ構成の表示のアクセス許可を持つ 役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。 LW SSO 認証を編集できるのは、セ キュリティ構成の管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

LW SSO 認証構成のセットアップ

- 1. [**システムワークスペース**] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [セキュリティ] > [SSO] を選択します。



3. [initString] ボックスに、HP 製品への接続に使用するパスワードを入力します。この値は、ほかの HP 製品の LW SSO 構成に使用される値と同じである必要があります。このパスワードは、12 文字以上にする必要があります。

initstring は、LW SSO Cookie の暗号化に使用され、ユーザーのパスワードには関係ありません。ただし、2 つのアプリケーションが LW SSO を使用して統合されている場合、両方のアプリケーションの initstring を一致させる必要があります。 initstring が一致していないと、あるアプリケーションで暗号化された Cookie を別のアプリケーションで復号化できません。

- 4. [ドメイン] ボックスに、HP OO サーバーのドメインを入力します。
- 5. LW SSO を採用しているアプリケーションで複数のドメインを使用している場合、それらのドメイン を [**保護されたドメイン**] ボックスにカンマ区 切りで入力します。

HP OO サーバードメインは、[**保護されたドメイン**] リストに表示される必要があります。[**保護されたドメイン**] ボックスに複数のドメインがある場合、LW SSO 経由で統合されるすべてのアプリケーションで、保護されたドメインのリストの定義が同じである必要があります。

6. **[有効にする**] チェックボックスを選択して、LW SSO 構成を有効にします。この操作を行うと、設定の保存後に、**[LW SSO 設定**] タイトルの横にあるアイコンが **[有効**] **②** に変わります。

注: [有効にする] チェックボックスは、一般的な認証機能を有効にしたまま、LW SSO 構成を無効にできるようにするためにあります。たとえば、内部ユーザーとLDAP ユーザーに対して認証を有効にしても、LW SSO 構成を有効にする場合と、有効にしない場合があります。

LW SSO 設定の新しい状態は、[**有効にする**] チェックボックスの選択時にすぐ有効にはならず、新しい構成を保存したときに有効になることに注意してください。

- 7. [保存]をクリックします。
- 8. 認証機能を有効にするには、[**認証を有効にする**] チェックボックスを選択し、確認ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

[**認証を有効にする**] チェックボックスを使用できるのは、今後認証を無効にできるアクセス許可を持つ既存のユーザーがいる場合のみです。

注: [認証を有効にする] チェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。

既存のLWSSO認証構成の編集

- 1. [セキュリティ] > [SSO] を選択します。
- 2. 必要な変更を入力します。
- 3. [保存] をクリックします。

REST API 経由のLW SSO 構成の更新または取得

REST API 経由でのLW SSO 構成の更新または取得は、LW SSO を誤って構成し、Central システムからロックアウトされる場合に役に立ちます。

LW SSO 構成を更新するには、次の手順を実行します。

PUT HTTP メソッドを使用して、**/oo/rest/authns/lwsso-config** で HTTP Rest 呼び出しを行います。

種類として.json を使用する場合:

{ enabled : false,

initString: "CENTRAL PASS PHRASE",

```
domain : "domain1"
protectedDomains : ["domain1", "domain2"]
}
```

LW SSO 構成を取得するには、次の手順を実行します。

GET HTTP メソッドを使用して、**/oo/rest/authns/lwsso-config** で HTTP Rest 呼び出しを行います。

参照情報

[セキュリティ] > [SSO]

セキュリティ トボロジ	
□ 認証を有効にする	
役割 LDAP 内部ユーザ	ー SSO セキュリティバナー
LW SSO 設定 ⊗	
□ 有効に する	
InitString:	LW SSO パスフレーズ (LW SSO を通じて統合されるすべてのアプリケーションで
ドメイン:	サーバーが属するドメイン
保護されたドメイン:	
	LW SSO を採用したアプリケーションで使用されるコンマ区切りのドメインのリスト 保存

GUI アイテム	説明
[認証を有効にする] チェックボックス	HP OO のユーザー認証機能を有効にするには、このチェックボックスを選択します。 このチェックボックスをオフにすると、認証は行われず、すべてのユーザーがすべてのタスクにアクセスできます。
⊗ ⊗	[LW SSO 設定] タイトルの横にあるアイコンは、設定が有効または無効であるかを示します。
有効にする	このチェックボックスを選択して、LW SSO を有効にします。

GUI アイテム	説明
initString	initstring は、LW SSO Cookie の暗号化に使用され、ユーザーのパスワードには関係ありません。ただし、2 つのアプリケーションが LW SSO を使用して統合されている場合、両方のアプリケーションの initstring を一致させる必要があります。 initstring が一致していないと、あるアプリケーションで暗号化された Cookie を別のアプリケーションで復号化できません。
ドメイン	HP OO サーバーのドメインを入力します。
保護されたドメイン	LW SSO を採用しているアプリケーションで複数のドメインを使用している場合、それらのドメインを [保護されたドメイン] ボックスにカンマ区切りで入力します。
	HP OO サーバードメインは、[保護されたドメイン] リストに表示される必要があります。[保護されたドメイン] ボックスに複数のドメインがある場合、LW SSO 経由で統合されるすべてのアプリケーションで、保護されたドメインのリストの定義が同じである必要があります。
保存	クリックして LW SSO 認証構成を保存します。

トポロジのセットアップ - ワーカー

■ ネットワークトポロジとは、ネットワーク内のさまざまな要素 (リンク、ノードなど)の配置です。ワーカーとロードバランサーは、トポロジの一部で、[**トポロジ**] タブの下で構成できます。

注: [トポロジ] タブは、トポロジの管理またはトポロジの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。トポロジを編集できるのは、トポロジの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

ワーカーはフローの実 行を担当します。ワーカーは、Central に接続し、タスク (フロー実 行 メッセージ) を取得して処理します。

ワーカーグループとは、ワーカーの論理的な集合です。1 つのワーカーではなくグループを使用することで、アクション実行の高い負荷にワーカーが耐えられるようにし、またデータセンター内でのワーカーの可用性を高めることができます。

注: ワーカーは、複数のグループに同時に所属することができます。

ワーカーとワーカーグループの詳細については、『HP OO コンセプトガイド』の「ワーカーグループとグループエイリアス」を参照してください。

実行する操作

ワーカーの既存のワーカーグループへの割り当て

- 1. [システムワークスペース] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
- 3. ワーカー名 の横 にあるチェックボックスを選択します。



- 4. [グループへの割り当て] グループへの割り当て ボタンをクリックします。
- 5. このワーカーを割り当てるワーカーグループの横にあるチェックボックスを選択します。

グループへの割り当て 🗸
✓ DEFAULT_WORKER_GROUP✓ RAS_Operator_Path
□ 新規グループの追加
適用 キャンセル

6. [適用]をクリックします。

新しいワーカーグループを作成し、そのグループにワーカーを割り当てる

- 1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
- 2. ワーカー名 の横にあるチェックボックスを選択します。
- 3. [グループへの割り当て] グループへの割り当て | マープへの割り当て | マープへの割り | マー
- 4. 空のボックスの横にあるチェックボックスをクリックして、新しく作成するワーカーグループの名前を入力します。



5. [適用]をクリックします。

ワーカーグループからのワーカーの削除

- [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
- 2. ワーカー名 の横にあるチェックボックスを選択します。

- 3. [グループへの割り当て] グループへの割り当て | ・ ボタンをクリックします。
- 4. このワーカーを削除するワーカーグループの横にあるチェックボックスをオフにします。
- 5. [適用]をクリックします。

ワーカーの無効化

- 1. [コンテンツ管理] > [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
- 2. ワーカー名の横にあるチェックボックスを選択します。
- 3. [ワーカー] ツールバーで、[無効にする] 🕙 をクリックします。

注: [無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の有効なワーカーを選択した場合のみです。

ワーカーの有効化

- 1. [トポロジ] > [ワーカー] を選択します。
- 2. ワーカー名 の横にあるチェックボックスを選択します。
- 3. [ワーカー] ツールバーで、[有効にする] をクリックします。

注: [**有効にする**] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の無効なワーカーを選択した場合のみです。

参照情報

[トポロジ] > [ワーカー]



GUI アイテム	説明
[有効にする] ダボタン	クリックして選択したワーカーを有効にします。[有効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の無効なワーカーを選択した場合のみです。
[無効にする] 図 ボタン	クリックして選択したワーカーを無効にします。[無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 人の有効なワーカーを選択した場合のみです。
グループへの割り当て 🗸	クリックすると、[グループへの割り当て] ポップアップが表示されます。
ステータス	ワーカーが有効または無効になっているかどうか。
ホスト名	このワーカーがあるホストの名前。
パス	このワーカーがあるホストのパス。
オペレーティングシステム	このワーカーがあるマシンのオペレーティングシステム。
JDK	ワーカーマシンにインストールされている JDK のバージョン。
.NET	ワーカーマシンにインストールされている.NETのバージョン。
説明	ワーカーの UUID (一意の識別子)。
グループ	選択したワーカーが割り当てられるワーカーグループ。

[トポロジ] > [ワーカー] > [グループへの割り当て] ポップアップ

グループへの割り当て | 🗸

- ☑ DEFAULT_WORKER_GROUP
- ☑ RAS_Operator_Path
- □ 新規グループの追加

適用

キャンセル

GUI アイテム	説明
グループへの割り当て	[グループへの割り当て] ボタンをクリックすると、[グループへの割り当て] ポップアップが表示されます。

GUI アイテム	説明
新規グループの追加	チェックボックスを選択して、選択したワーカーが割り当てられる新しいグループの名前を入力します。
<ワーカーグループ>	グループ名の横にあるチェックボックスを選択して、選択したワーカーを これらのグループに割り当てます。ダイアログボックスの表示は、セット アップしたグループによって変わります。
適用	クリックすると、変更内容がワーカーに適用されます。
キャンセル	クリックすると、変更内容が保存されずに[グループへの割り当て]ポップアップが閉じます。

トポロジのセットアップ - 構成

■ ロードバランサー、リバースプロキシ、または DNS ロードバランサーを使用している場合、関連する外部 URL がある場所を HP OO に通知する必要があります。たとえば、**Schema/port:** https://my.server.:443/oo のようになります。この URL は、イベントログで必要になります。

ロード バランサーホストの URL が構成されていない場合、イベントログは HTTP 要求からの IP/ホストを参照します。

注: 構成アイテム用のREST API 経由で、ロードバランサーホストのURL を構成することもできます。

実行する操作

ロード バランサー、リバースプロキシまたは DNS ロード バランサーの外 部 URL の構成

- 1. [**システムワークスペース**] ボタンをクリックして、システムワークスペースを表示します。
- 2. [トポロジ] > [構成] を選択します。
- 3. **[URL]** ボックスに、ロード バランサー、リバースプロキシ、または DNS ロード バランサーの URL を入力します。
- 4. [保存]をクリックします。

参照情報

[トポロジ] > [構成]



GUI アイテム	説明
URL	ロード バランサー、リバースプロキシ、または DNS ロード バランサーの URL を入 力します。
保存	クリックして構成を保存します。

ブラウザーの言語の設定

Central の言語 サポートは、ブラウザーの言語 に基づきます。言語 がサポートされていない場合は、Central は英語で表示されます。

次の手順で、ブラウザーの言語サポートを設定します。

ブラウザー	手順
Internet Explorer	言語の設定を変更するには、[ツール] > [インターネットオプション] > [全般] > [言語] > [言語の優先順位] の順に移動して、必要な言語を選択します。最も優先順位の高い言語がリストの先頭になるようにします。
Firefox	言語の設定を変更するには、[ツール] > [オプション] を選択し、[コンテンツ] (タブ) > [言語] > [選択] (ボタン) を選択します。必要な言語を選択します。
Google Chrome	言語の設定を変更するには、[Google Chrome のカスタマイズと制御] アイコンを選択してから、[設定] > [詳細設定を表示] を選択します。[言語] セクションの[言語と入力の設定] をクリックします。[追加] をクリックして、必要な言語を選択します。あらかじめ定義されているセットから言語を追加することができます。Chrome は選択したすべての言語を設定した順序で Accept-Language ヘッダーを用いて送信します。
Safari	Windows では、Safari で送信される言語を変更 することはできません。Accept-Language ヘッダーで 送信される言語は、システム設定に基づいて設定 されます。

注:追加した言語がリストの先頭になるようにしてください。

コンテンツパックの昇格



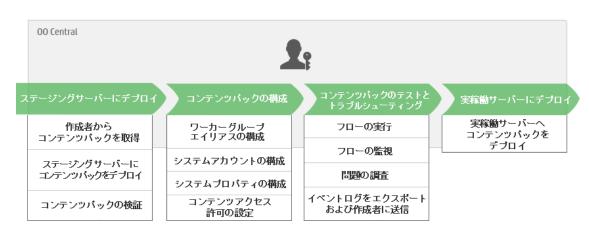
運用管理者は、通常コンテンツパックの昇格を担当する管理者です。

コンテンツパックの昇格 - 概要	61
コンテンツパックのデプロイ	64
コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ	68
コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ	71
コンテンツパックのシステムプロパティのセットアップ	74
フローライブラリの管理	78
フローマップの表示	85
コンテンツパックのテストとトラブルシューティング	88

コンテンツパックの昇格 - 概要

昇格とは

昇格の目的は、新しいコンテンツパックを Central 実稼働 サーバーにデプロイし、ユーザーがフローを使用できるようにすることです。



昇格は、コンテンツパックを次のCentral環境にデプロイします。

- 開発
- QA (オプション)

- ステージング
- 実稼働

昇格とデプロイメントの違い

デプロイメント は昇格の一部です。ただし、昇格プロセスには、次のようなほかのタスクも含まれています。

- コンテンツパックの構成:ワーカーグループエイリアスの構成、システムアカウントのマッピングなど
- コンテンツパック内のフローのテストとトラブルシューティング

コンテンツパックとは

コンテンツパックとは、オペレーション、フロー、操作 (Java ベースまたは .NET ベース)、および構成アイテムを含むファイルです。 フロー作成者は、プロジェクトを完成すると、 Central サーバーでの昇格のためにコンテンツパックにパッケージ化します。

コンテンツパックの詳細については、「HP OO の基本概念」を参照してください。

コンテンツパックを昇格 するタイミング

次の場合にコンテンツパックを昇格します。

- 実稼働環境で新しいコンテンツが必要な場合
- フロー内のバグを修正し、新しいバージョンのフローを実稼働環境にアップロードする必要がある場合。
- 新しい機能を実稼働環境の既存のフローに追加する必要がある場合。
- HPLN から新しいバージョンの既定のコンテンツパックにアップグレードしている場合。

昇格を実行するペルソナ

昇格プロセスは各環境で少し異なり、異なるペルソナによって実行される可能性があります。ただし、ほとんどの場合、運用管理者が昇格を担当します。

昇格を実行する担当者には、コンテンツパックの表示とコンテンツパックの管理のアクセス許可を持つ 役割を割り当てる必要があります。

昇格ステップ

注: これは Central ワークフローの簡単な概要であり、ここに記載していない多くのオプションがあります。任意のステップの詳細については、リンクを使用してオプションの詳細を確認してください。

ステップ 1: フロー作 成者 からのコンテンツパックの取得

- 1. プロー作成者は HP OO Studio内でコンテンツパックを作成します。『HP OO Studioオーサリングガイド』の「コンテンツパックのコンパイル」を参照してください。
- 2. ジフロー作成者がコンテンツパックをファイルシステムに保存します。
- 3. ジフロー作成者がコンテンツパックを運用管理者/プロモーターと共有します。

ステップ 2: ステージングサーバーへのデプロイ

- 運用管理者はフロー作成者からコンテンツパックを受け取ります。
- 2. 型 運用管理者はステージングサーバーにコンテンツパックをデプロイします。「コンテンツパックのデプロイ」(64ページ)を参照してください。

ステップ 3: コンテンツパック内 のコンテンツの構成

このステップでは、運用管理者がコンテンツパック内のコンテンツを構成して、コンテンツパックを環境に合うように調整します。

- 1. コンテンツパックにシステムアカウントが含まれている場合、運用管理者はコンテンツパック内のシステムアカウントに値を割り当てます。「コンテンツパックのシステムアカウントのセットアップ」(71 ページ)を参照してください。
- 2. **上** 運用管理者はワーカーグループのエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングします。「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。

注: 運用管理者は、API 経由でシステムプロパティをマップすることもできます。 詳細については、『HP OO 10.00 API Guide』を参照してください。

3. **本** 運用管理者がフローのコンテンツアクセス許可を設定します。「フローライブラリの管理」(78 ページ)を参照してください。

ステップ 4: コンテンツパックのテストとトラブルシューティング

- 1. ▲ 運用管理者が[コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] から各フローを実行し、正しく動作するかどうかを確認します。「フロー実行の追跡」(116ページ)を参照してください。
- 2. **本** フロー実行が失敗する場合、運用管理者はフローをドリルダウンして、問題を特定できます。「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照してください。

ステップ 5: 実稼働サーバーへのデプロイ

- 1. ♣️ 必要に応じて、運用管理者はコンテンツパックの構成を実稼働サーバーに合わせて調整します。 たとえば、このサーバーに対しては、ワーカーグループエイリアスとシステムアカウントを異なる方法でマッピングする必要がある場合があります。
- 2. 🎤 最後に、運用管理者がコンテンツパックを実稼働サーバーにデプロイします。

コンテンツパックのデプロイ

★ デプロイメントは、昇格プロセスで少なくとも2回実行されます。 コンテンツパックは、多くの場合、次のCentral 環境にデプロイされます。

- 開発
- QA (オプション)
- ステージング
- 実稼働

注: 自分で作成したコンテンツパックをデプロイする前に、ベースコンテンツパックおよび Studio で使用されているその他の HP コンテンツパックをデプロイすることをお勧めします。

コンテンツパックのバージョン

コンテンツがフロー作成者によって更新され、新しいバージョンのコンテンツパックが作成されるため、コンテンツパックのサーバーへのデプロイは複数回行うことができます。

コンテンツパックをデプロイした後で、直前のデプロイメントバージョンにロールバックすることができます。この機能は、新しいデプロイメントのフローで問題が見つかった場合に便利です。詳細については、「前のデプロイメントへのロールバック」を参照してください。

注: 直前のデプロイメントにロールバックすると、コンテンツは最新のデプロイメントの直前の状態に戻ります。 最新のデプロイメントに複数のコンテンツパックが含まれていた場合、ロールバックでは、これらのすべてのコンテンツパックが以前の状態に戻されます。

ロールバックできるのは、1 つ前のバージョンのみであることにも注意してください。 直前のバージョン よりも前のバージョンには、ロールバックできません。

コンテンツパックの検証

デプロイメントプロセス中に、Central はデプロイされたコンテンツパックを検証して、デプロイされたコンテンツの構造的な整合性が損なわれていないことを確認します。この確認では、参照の不足がないこと、重複した UUID がないこと、コンテンツパック内のフローの形式が正しいこと、重複したフローパスと重複したシステムプロパティ名がないことなどがチェックされます。

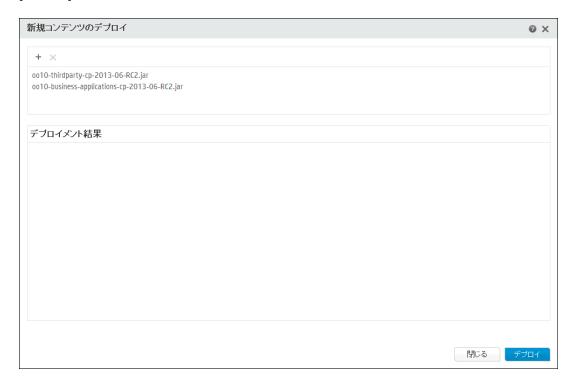
分割デプロイメント

コンテンツパックのデプロイ後に、Studio で元のコンテンツパックを2つ以上に分割し、それぞれ別々にデプロイすることができます。 これらの小さなコンテンツパックのいずれかが最初にデプロイされたコンテンツパックと同じ名前である場合、Central サーバー上の元のコンテンツパックが上書きされます。別の名前であれば、一緒にデプロイされます。

実行する操作

コンテンツパックのデプロイ

- 1. [**コンテンツワークスペース**] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表 示します。
- 2. [**フローライブラリ**] タブで、[新規コンテンツのデプロイ] ボタンをクリックします。
- 3. [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスで、[追加] + ボタンをクリックします。
- 4. ファイルシステム上のコンテンツパックを参照して選択し、[**開く**]をクリックします。
- 5. 必要に応じてステップ3~4を繰り返し、さらにコンテンツパックを追加します。
- 6. [デプロイ] をクリックします。



デプロイメントには数分間かかる場合があり、カーソルに[ビジー] アイコンが表示されます。

デプロイメントの成功 または失敗 に関する情報 は、[デプロイメント結果] セクションに表示されます。

7. [閉じる] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

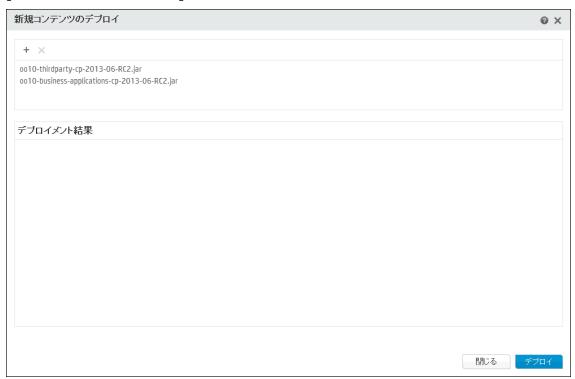
最後のデプロイメントへのロールバック

コンテンツパックをデプロイした後で、直前のデプロイメントにロールバックすることができます。この機能は、新しいデプロイメントのフローで問題が見つかった場合に便利です。

- 1. [コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] タブをクリックします。
- 2. [デプロイメントのロールバック] ・ボタンをクリックします。
- 3. 確認ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

参照情報

[新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックス



追加 +	クリックしてデプロイメント 用 の新 規 コンテンツパックを追 加 します。 1 つの操作 で複数 のコンテンツパックを追 加 およびデプロイできます。
削除 ×	1 つのコンテンツパックを選択し、× をクリックして [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスから削除します。
デプロイメント結果	デプロイメントの成功または失敗に関する情報を表示します。
デプロイ	クリックして [新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスにリストされているコンテンツパックをデプロイします。
閉じる	クリックして [新 規 コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスを閉じます。

コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセット アップ

♪ コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。

コンテンツパックに、実際のワーカーグループでなくグループエイリアスに割り当てられているオペレーションが含まれている場合、これらのグループエイリアスを実際のワーカーグループにマッピングする必要があります。 グループエイリアスの詳細については、『HP OO コンセプトガイド』の「ワーカーグループとグループエイリアス」を参照してください。

注: グループ名とエイリアス名が同じ場合、これらはデフォルトで自動的にマッピングされます。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。グループエイリアスを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

コンテンツパック内のグループエイリアスのワーカーグループへの割り当て

コンテンツパックにグループエイリアスに割り当てられているオペレーションが含まれている場合、これらのグループエイリアスをワーカーグループにマッピングします。

- 1. [**コンテンツワークスペース**] **ボタンをクリック**して、コンテンツワークスペースを表示します。
- 2. [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
- 3. 「追加] + ボタンをクリックします。「グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開きます。



4. [エイリアス名] ボックスに、オペレーションで使用したエイリアスの名前を入力します。

- 5. [**ワーカーグループ名**] リストから、このグループエイリアスをマッピングするワーカーグループを選択します。
- 6. [保存] をクリックします。

注: まだ存在していないグループにグループエイリアスをマッピングする場合、[コンテンツ管理] > [システム構成] > [ワーカー] に移動し、新しいグループを作成してから、このタスクに戻ってマッピングしてください。ワーカーグループの作成の詳細については、「トポロジのセットアップ - ワーカー」(54ページ)を参照してください。

グループエイリアスにマッピングされるワーカーグループの変更

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
- 2. 編集するグループエイリアスを選択し、[編集] / ボタンをクリックします。
- 3. [**ワーカーグループ名**] リストから、グループエイリアスをマッピングする別のワーカーグループを選択します。
- 4. [保存]をクリックします。

グループエイリアスのマッピングの削除

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [グループエイリアス] を選択します。
- 2. 削除するグループエイリアスのマッピングを選択し、「削除 | × ボタンをクリックします。
- 3. 確認のダイアログボックスで[はい]をクリックします。

参照情報

[グループエイリアス] ペイン



GUI アイテム	説明
名前	コンテンツパックのワーカーグループエイリアスの名 前を表示します。
ワーカーグループ名	該 当 するエイリアスのマッピング先 のワーカーグループを表 示します。
[追加] + ボタン	[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開き、コンテンツパック内のグループエイリアスをワーカーグループに割り当てることができます。
[編集] / ボタン	[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックスが開き、グループエイリアスにマッピングされるワーカーグループを変更できます。
[削除] × ボタン	選択したグループエイリアスのマッピングを削除します。

[グループエイリアスの詳細] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
エイリアス名	コンテンツパックのワーカーグループエイリアスの名 前を入 力します。
ワーカーグループ名	該 当 するエイリアスのマッピング先 のワーカーグループを選 択します。

コンテンツパックのシステムアカウント のセット アップ

♪ コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。この調整には、システムアカウントのセットアップが含まれます。

多くの場合、コンテンツパックには構成済みのシステムアカウントが付属しています。たとえば、Oracle データベースのコンテンツパックをデプロイしている場合、その中には Oracle ユーザーアカウントが含まれています。 Central ユーザー名を作成し、コンテンツパック内のシステムアカウントにマッピングする必要があります。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。システムアカウントを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

システムアカウント のコンテンツパックへの追 加



- 2. [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
- 3. [追加] + ボタンをクリックします。「システムアカウントの詳細] ダイアログボックスが開きます。



- 4. [システムアカウント名] ボックスに、コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を入力します。
- 5. [ユーザー名] ボックスに、Central ユーザーアカウントの名前を入力します。このユーザー名は、コンテンツパックからシステムアカウントにマッピングされます。

注: ユーザー名は、元のシステムアカウント名と同じである必要はありません。

- 6. [パスワード] ボックスに、Central ユーザーのパスワードを入力します。
- 7. [パスワードの確認] ボックスに再度 パスワードを入力します。
- 8. [保存] をクリックします。

コンテンツパック内 のシステムアカウント の編 集

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
- 2. 編集するシステムアカウントを選択し、[編集] / ボタンをクリックします。
- 3. [システムアカウントの詳細] ダイアログボックスで、システムアカウント名、ユーザー名、またはパスワードに対して必要な変更を行います。

注: <>\\"/;%の文字はシステムアカウント名には使用できません。

4. [保存]をクリックします。

コンテンツパックからのシステムアカウントのマッピングの削除

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムアカウント] を選択します。
- 2. 削除するシステムアカウントのマッピングを選択し、[削除] × ボタンをクリックします。
- 3. 確認のダイアログボックスで[はい]をクリックします。

参照情報

[システムアカウント] ペイン



GUI アイテム	説明
システムアカウント名	コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を表示します。
ユーザー名	システムアカウント にマッピングされる Central ユーザー名 を表示します。
[追加] + ボタン	[システムアカウントの詳細] ダイアログボックスが開き、新しいシステムアカウントを追加できます。
[編集] / ボタン	[システムアカウントの詳細] ダイアログボックスが開き、選択したシステムアカウントを編集できます。
[削除] × ボタン	選択したシステムアカウントを削除します。

[システムアカウントの詳細] ダイアログボックス

システムアカウントの詳細	0 ×
システムアカウント名: * ユーザー名: バスワード: バスワードの確認:	
	キャンセル 保存

GUI アイテム	説明
システムアカウント名	コンテンツパックに表示されるシステムアカウント名を入力します。
ユーザー名	システムアカウントにマッピングされる Central ユーザー名を入力します。
パスワード	Central ユーザー名 のパスワードを入 力します。
パスワードの確認	[パスワードの確認] ボックスに再度 パスワードを入力します。

コンテンツパックのシステムプロパティのセット アップ

♪ コンテンツパックを Central サーバーにデプロイしたら、運用管理者は、このコンテンツパックのコンテンツを構成して、環境に合うように調整する必要があります。この中には、システムプロパティのセットアップが含まれています。

フローライブラリ	構成アイテム		
グループエイリアス	システムアカウント	システムプロパティ	
+ / O ×		ı	
名前		デブロイ値	オーバーライド値

- システムプロパティがデプロイ済みのコンテンツパック内に存在していた場合は、元の値が[デプロイ値]列に表示されます。
- デプロイ済 みのコンテンツパックのシステムプロパティを編集した場合は、デフォルト値がオーバーライドされて、新しい値が[オーバーライド値]列に表示されます。
- システムプロパティを新規に作成した場合は、[オーバーライド値] 列のみに値が表示されます。

構成アイテムにアクセスするには、[コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] タブをクリックします。

注: [構成アイテム] タブは、構成アイテムの管理または構成アイテムの表示のアクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合にのみ、表示されます。システムプロパティを編集できるのは、構成アイテムの管理のアクセス許可を持つ役割がある場合のみです。

実行する操作

システムプロパティの追加

- 1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
- 2. [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
- 3. [追加] + ボタンをクリックします。[システムプロパティの詳細] ダイアログボックスが開きます。



4. [名前] ボックスに、最大 255 文字のシステムプロパティ名を入力します。

注: /\ の文字はシステムプロパティ名には使用できません。

5. [保存]をクリックします。

システムプロパティ値 の編集

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
- 2. 編集するシステムプロパティを選択し、[編集] / ボタンをクリックします。



3. [システムプロパティ構成] ダイアログボックスで、システムプロパティ値に対して必要な変更を行います。

注: デプロイ済 みのコンテンツパックが元 になっている場合 は、システムプロパティ名 を変 更 できません。

4. [保存]をクリックします。

システムプロパティの削除

削除できるシステムプロパティは、コンテンツパックをデプロイした後で作成したシステムプロパティに限られます。 デプロイ時 にコンテンツパック内 に含まれていたシステムプロパティを削除 することはできません。

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
- 2. 削除するシステムプロパティを選択し、「削除」 ボタンをクリックします。
- 3. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

コンテンツパックからのシステムプロパティを元に戻す

デプロイ時 にコンテンツパック内 に含 まれていたシステムプロパティの値 を変 更した場 合 は、これを元 の値 に戻 すことができます。

- 1. [コンテンツワークスペース] > [構成アイテム] > [システムプロパティ] を選択します。
- 2. 元の値に戻すシステムプロパティを選択し、[元に戻す] [□] ボタンをクリックします。
- 3. 確認のダイアログボックスで[はい]をクリックします。

参照情報

[システムプロパティ] タブ

 プローライブラリ
 構成アイテム

 グループエイリアス
 システムプロパティ

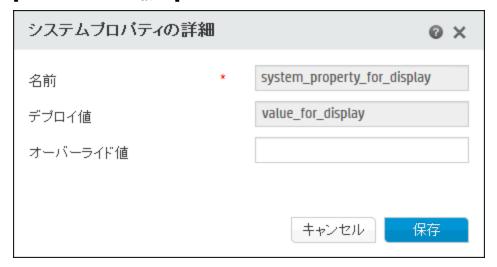
 + / O ×

 名前
 デプロイ値

 オーバーライド値

GUI アイテム	説明
名前	システムプロパティの名 前 が表 示されます。
デプロイ値	デプロイ時 にコンテンツパック内 に含 まれていたシステムプロパティの場合、元の値 が表 示されます。 システムプロパティを編集 する場合 は、このフィールド に元の値 が記録されます。
オーバーライド値	デプロイ後にコンテンツパックに追加されたシステムプロパティの場合、その値が表示されます。
	• デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティを編集した場合、元の値をオーバーライドする編集後の値が表示されます。
[追加] + ボタン	[システムプロパティ構成] ダイアログボックスが開くので、新しいシステムプロパティを追加できます。
[編集] / ボタン	[システムプロパティ構成] ダイアログボックスが開くので、選択したシステムプロパティを編集できます。
[削除] × ボタン	選択したシステムプロパティを削除します。このボタンは、デプロイ後にコンテンツパックに追加されたシステムプロパティでのみ利用できます。
[元に戻す] の ポタン	選択したシステムプロパティを元の値に戻します。このボタンは、デプロイ時にコンテンツパック内に含まれていたシステムプロパティでのみ利用できます。

[システムプロパティ構成] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明	
名前	システムプロパティの名 前を入力します。	
オーバーライド値	システムプロパティの値を入力します。	
保存	システムプロパティを保存します。	

フローライブラリの管理

♪ コンテンツパックをデプロイした後で、フローライブラリでコンテンツパック内のフローを表示できます。 フローライブラリからフローを参照して、必要なフローを検索できます。フローのメタデータの表示、フローを最後に実行したときのレポートの表示、およびコンテンツアクセス許可の設定を行うことができます。

フローライブラリにアクセスするには、[**コンテンツワークスペース**] > [**フローライブラリ**] タブをクリックします。 フローライブラリでフローを選択すると、そのフローに関する情報が右側の情報ペインに表示されます。 この情報には次の内容が含まれています。

- フローに関する説明 (存在する場合)
- フローが格納されている場所へのパス
- フローのバージョン
- フローの UUID
- フローの ROI

コンテンツアクセス許可の設定

コンテンツアクセス許可を使用すると、ユーザーに割り当てられた役割に従って、データ (フローとフォルダー) へのアクセスを制限できます。これは、コンテンツパックの昇格の一環として実行する必要があり

ます。

役割には、フローまたはフォルダーに対する表示アクセス許可、実行アクセス許可のいずれか、または両方を付与することができます。たとえば、選択されたフォルダーのコンテンツの表示と実行を行うプロモーターの役割のアクセス許可、またはコンテンツの表示のみを行うエンドューザーの役割のアクセス許可をユーザーに付与できます。

注: コンテンツアクセス許可を変更するには、**セキュリティの管理**アクセス許可を持つ役割が割り当てられている必要があります。

フォルダーのコンテンツアクセス許可を設定し、変更内容をすべての子に適用する場合、これらのアクセス許可はそのフォルダー内のすべてのフローに適用されます。 ライブラリ全体のアクセス許可を設定することもできます。

注: コンテンツアクセス許可は、HP OO ユーザーがシステム内で実行できる操作を制限することとは異なります。これは役割ベースのアクセス制御 (RBAC) によって行われます。RBAC の詳細については、「セキュリティのセットアップ - 役割」(21ページ)を参照してください。

実行する操作

フロー情報の表示

- 1. [**コンテンツワークスペース**] **ボ**タンをクリックして、コンテンツワークスペースを表 示します。
- 2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
- 3. フォルダーを開いて必要なフローを探します。
- 4. フローを選択します。
- 5. 右側の情報ペインに表示されるフロー情報を確認します。
- 6. 必要に応じて、スクロールバーを使用して下にスクロールし、[**説明**] セクションの内容を確認します。
- 7. 必要に応じて、「グラフを開く」ボタンをクリックして、フローを表すフローマップを表示します。



詳細については、「フローマップの表示」(85ページ)を参照してください。

フローを最後に実行したときの情報の表示

フローを最後に実行したときの結果の詳細を表示できます。

- 1.[**コンテンツワークスペース**] **▼▼▼** ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表 示します。
- 2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
- 3. フローライブラリ内のフローを選択します。
- 4. [最終実行レポート] ボタンをクリックします。[ドリルダウン] ウィンドウが開き、フローを最後に実行したときの結果が表示されます。



[最終実行レポート] ボタンは、少なくとも一度実行されたフローに対してのみ使用できます。

[ドリルダウン] ダイアログボックスの情報は、[エクスプローラーの実行] のドリルダウン表示の情報と同じです。 これらのフィールドの詳細については、「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照してください。

フローまたはフォルダーのコンテンツアクセス許 可 の設 定

- 1. フローライブラリ内のフローまたはフォルダーを選択します。
- 2. [アクセス許可] セクションで、[編集] ボタンをクリックします。
- 3. [アクセス許可の編集] ダイアログボックスで、[表示] および [実行] チェックボックスを選択して、選択した役割のアクセス許可を割り当てます。



- 選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフローまたは該当するフォルダーのコンテンツを表示できるようにするには、[表示]を選択します。
- 選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフローまたは該当するフォルダーのコンテンツを実行できるようにするには、[実行]を選択します。
- 4. フォルダーを選択した場合、[子に適用] チェックボックスを選択して、これらのアクセス許可をフォルダー内のすべてのフローに適用できます。
- 5. [保存]をクリックします。

参照情報

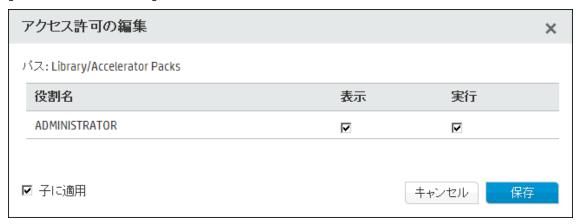
[フローライブラリ] ペイン

フローライブラリ 構成アイテム ▼ **i** Library Check for Max Size Limit (16GB or 75GB) Accelerator Packs Active Directory Application Servers 4c36f4d2-5aeb-4f76-93f1-6ebe38fbf2d3 Database Exchange Library/Accelerator Packs/Exchange/Diagnostics/Check for Max Deprecated Size Limit (16GB or 75GB).xml Diagnostics コンテンツバック: 🛱 Check for Max Size Lim **Business Applications** Health Check バージョン: Utility 🔳 1.0.117 lis 🔳 ▶ **iii** Network リンクの実行: Operating Systems http://16.55.246.206:8215/oo/trigger.html#4c36f4d2-5aeb-Virtualization 4f76-93f1-6ebe38fbf2d3 How Do I flows 説明: ▶ **i** Integrations Operations Templates アクセス許可 Tutorials **Utility Operations** / 編集 役割名 表示 実行 ✓ ~ ADMINISTRATOR **EVERYBODY** PROMOTER ~ **~** SYSTEM_ADMIN END_USER

GUI アイテム	説明
[新規コンテンツのデプ ロイ] ボタン	[新規コンテンツデプロイ] ボタンをクリックして、[新規コンテンツのデプロイ] ダイアログボックスを開きます。
[デプロイメントのロー ルバック] ボタン	[デプロイメントのロールバック] をクリックして、最後のデプロイメントにロールバックします。

[実行] ボタン	[実行] ボタンをクリックして、選択したフローを実行します。
[スケジュール] ^{*0} ボ タン	[スケジュール] ボタンをクリックして、[スケジュールの作成] ダイアログボックス を開きます。
[最終実行レポート]	選択したフローを最後に実行したときの結果の詳細を表示します。
ボタン	[最終実行レポート] ボタンは、少なくとも一度実行されたフローに対してのみ使用できます。
[グラフを開く] ボタン	[グラフを開く] ボタンをクリックすると、フローを表 すフローマップが表 示されます。 詳細については、「フローマップの表 示」(85ページ)を参照してください。
ID	選択したフローのUUIDを表示します。
パス	選択したフローの場所へのパスを表示します。
コンテンツパック	選択したフローの元となるコンテンツパックを表示します。
バージョン	選択したフローのバージョン番号を表示します。
リンクの実行	必要に応じて、このリンクをコピーし、外部 Web サイトに埋め込みます。リンクをクリックすると表示される内容をテストするには、ここからリンクをクリックして、トリガーダイアログボックスを開きます。詳細については、「フローの実行」(91ページ)を参照してください。
説明	選択したフローの説明を表示します。必要に応じて、スクロールバーを使用して下にスクロールし、[説明] セクションの内容を確認します。
アクセス許 可	システムで定義されている各役割に対して、このフローまたはフォルダーに 関して設定されているアクセス許可を表示します。
	• 該当する役割を持つユーザーが Central 内でこのフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を表示するアクセス許可がある場合、[表示] と表示されます。
	 該当する役割を持つユーザーが Central 内でこのフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を実行するアクセス許可がある場合、[実行] と表示されます。
	このセクションの役割の表示は、システム内で定義されている役割に対応します。
編集	クリックすると、選択したフローまたはフォルダーの [アクセス許可の編集] ダイアログボックスが開きます。

[アクセス許可の編集] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明
実行	選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を表示できるようにするには、[表示] を選択します。
表示	選択した役割を持つユーザーが Central 内で該当するフロー (または該当するフォルダーのコンテンツ) を実行できるようにするには、[実行] を選択します。
子に適用	フォルダーを選択した場合、[子に適用] チェックボックスを選択して、更新されたアクセス許可をフォルダー内のすべてのフローに適用します。
保存	クリックして変更内容をアクセス許可に保存します。

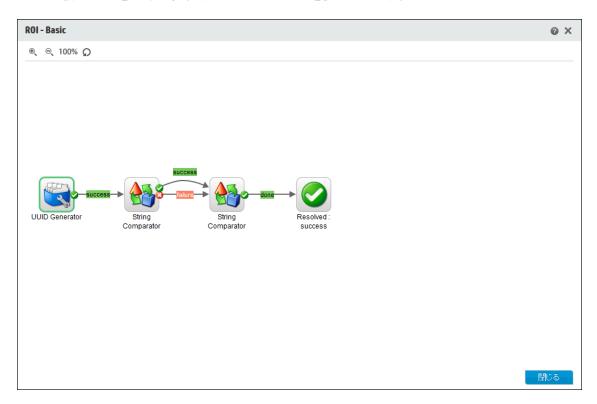
フローマップの表示

♪ 「フローライブラリ」で、「グラフを開く」ボタンをクリックすると、フローを表すフローマップを表示することができます。 このフローマップは、フローを作成したときに Studio に存在していたのと同じマップです。



フローマップを使用する目的

- プロモートフェーズでは、運用管理者がフローの内容や必要なステップと出力を理解しやすくする目的でフローマップを使用できます。
- 実行フェーズでは、エンドユーザーがフローの内容を明確にしたり必要なフローであることを確認したりする目的でフローマップを使用できます。
- トラブルシューティングフェーズでは、エンドユーザーと運用管理者が、フローが失敗する原因になった連続ステップを正確に把握するのにフローマップを使用できます。



実行する操作

フローマップの表示

- 1. [**コンテンツワークスペース**] **ボ**タンをクリックして、コンテンツワークスペースを表 示します。
- 2. [**フローライブラリ**] タブをクリックします。
- 3. 必要なフローを選択します。



4. 「グラフを開く」ボタン

をクリックして、フローを表すフローマップを表示します。

フローマップの拡大縮小

フローマップを表示する場合、フロー全体がウィンドウ内に収まるようにズームレベルが自動的に調整されます。 ただし、ズームレベルは変更することができます。

- 1. 選択したフローのフローマップを表示します。
- 2. 次のようにズームレベルを調整します。
 - [拡大] [●] ボタンをクリックして、ズームを拡大します。
 - [縮小] 🔍 ボタンをクリックして、ズームを縮小します。

フローマップのパン

- 1. 選択したフローのフローマップを表示します。
- 2. マウスカーソルをフローマップ上に置くと、カーソルが手のアイコンに変わります。
- 3. マウスカーソルを押してマップをドラッグし、マップ上の特定の場所に表示を移動します。

参照情報

フローマップの要素

GUI アイテム	説明
オペレーション Operation1	オペレーションは背景 がグレーです。

GUI アイテム	説明
レスポンス Generate Report From	オペレーションには、「エラー」、「解決済み」、「診断済み」、「操作なし」を表す定義済みのレスポンスアイコンが付いています。
非ブロック Local Ping	非ブロックステップは、残りのフローをブロックしません。フローの実行時に、非ブロックステップが実行されている間、非ブロックステップの後に配置されているステップが引き続き実行されます。
	非ブロックステップは、オレンジ色の稲妻付きで表示されます。
サブフロー 📸	サブフローとは、フロー内フローです。
Test Computer Account	サブフローは、背景が青色で表示されます。
レスポンスステップ Resolved: Diagnosed: No Action failure success diagnosed Taken:	レスポンスステップは、フローの終 点 です。
した。 した した した した した した した	ステップ間 のトランジションには、レスポンスステップと同じ色で色分 けされたラベルが表示されます。
ゲートトランジション	ゲート制御式トランジションは、次のステップへのアクセスを、
	特定の役割が割り当てられているユーザーに限定します。
	ゲートトランジションは、赤い矢印で表示されます。
ハンドオフトランジション 	ハンドオフトランジションとは、現在のユーザーがフロー実行を別のユーザーにハンドオフすることを推奨するメッセージが表示されるものです。
	ハンドオフトランジションは、白抜きの矢印で表示されます。

GUI アイテム	説明
複数のインスタンスステップ	複数のインスタンスステップは、複数のターゲットで複数回実 行できます。
Delete Computer Multi Instance	HP OO 10.01 では、複数のインスタンスステップは複数のインスタンス分岐内に存在します。
並列分岐ステップ	並列分岐ステップは、同時に実行される一連の連続したステップです。
Get Computer Account OU Lane 2 Move Computer Account To OU Parallel Split	各連続ステップは、フロー図内にレーンとして視覚的に表されます。

フローマップのツールバー

GUI アイテム	説明
拡大 ④	[拡大] ボタンをクリックすると、ズームが 10% ずつ拡大します。
縮小 🖯	[縮小] ボタンをクリックすると、ズームが 10% ずつ縮 小します。

コンテンツパックのテストとトラブルシューティング

♪ このステップでは、運用管理者がステージングサーバーのフローをテストおよびトラブルシューティングします。

実行する操作

ステージングサーバー上 のコンテンツパックのテスト

- 1. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
- 2. [**フローライブラリ**] タブをクリックします。

- 3. テストするフローを選択して、[実行] ボタンをクリックします。
- 4. フロー実行が想定どおりに行われるかどうかをチェックします。
- 5. **[実行]** タブをクリックして、フロー実行の進捗状況を監視します。詳細については、「フロー実行の追跡」(116ページ)を参照してください。
- 6. 各行の末尾にある[**ドリルダウン**] メボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。詳細については、「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照してください。
- 7. フローをさらにテストするには、同じまたは別のパラメーターを使用して再度実行します。

フローの実行と監視



運用管理者とエンドユーザーは、フローの実行と監視を担当します。

フローの実行と監視-概要	90
フローの実行	91
フロー実 行 のスケジューリング	99
フロー実行の追跡	116
フロー実行の管理	122
フロー実行の表示のフィルタリング	128
フロー実 行 のテストとトラブルシューティング	132

フローの実行と監視 - 概要

コンテンツパックをデプロイしたら、運用管理者またはエンドユーザーは、フローを実行し、フロー実行を監視できます。



これはワークフローの簡単な概要であり、ここに記載していない多くのオプションがあることに注意してください。任意のステップの詳細については、リンクを使用してオプションの詳細を確認してください。

ステップ 1: 実行するフローの検索

▲ ● 運用管理者/エンドユーザーが、フローライブラリを使用してフローを参照します。[コンテンツワークスペース] > [フローライブラリ] モジュールまたは [実行ワークスペース] > [エクスプローラーの実行] モジュールに移動します。「フローライブラリの管理」(78ページ)を参照してください。

ステップ 2: フローの実行

▲ ● 運用管理者/エンドユーザーはフローを実行します。「フローの実行」(91ページ)を参照してください。

▲ ♪ または、運用管理者/エンドユーザーは、フローが後で実行されるようにスケジュールを設定します。「フロー実行のスケジューリング」(99ページ)を参照してください。

ステップ 3: フロー実行の監視

♪ ② 運用管理者/エンドユーザーは [エクスプローラーの実行] でフロー実行を追跡します。「フロー実行の追跡」(116ページ)を参照してください。

♪ ♪ 必要に応じて、運用管理者/エンドユーザーは、フロー実行の操作 (フロー実行の一時停止、再開、キャンセルなど)を実行します。「フロー実行の管理」(122ページ)を参照してください。

ステップ 4: フロー実 行 のトラブルシューティング

▲ 必要に応じて、運用管理者は実行に関する問題を調査します。「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照してください。

フローの実行

🛂 💪 Central では、次の異なる場所からフローを実行できます。

- エクスプローラーの実行
- フローライブラリ

フロー実行の一時停止、再開、またはキャンセル方法については、「フロー実行の管理」(122ページ)を参照してください。

実行する操作

[エクスプローラーの実行] からのフローの実行

- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。
- 3. 右上隅にある[実行] ボタンをクリックします。



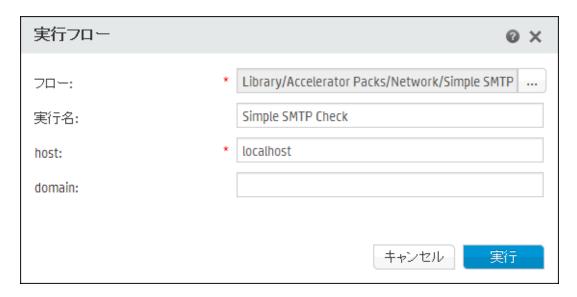
4. [フローの選択] の横にある ボタンをクリックして、[フローの選択] ダイアログボックスを開きます。



- 5. 実行するフローを選択して、[OK]をクリックします。
- 6. [実行名] ボックスに、実行の名前を入力します。

デフォルトでは、実行名はフロー名ですが、変更可能です。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。

7. [実行フロー] ダイアログボックスで、実行に対して必要な入力を行います。



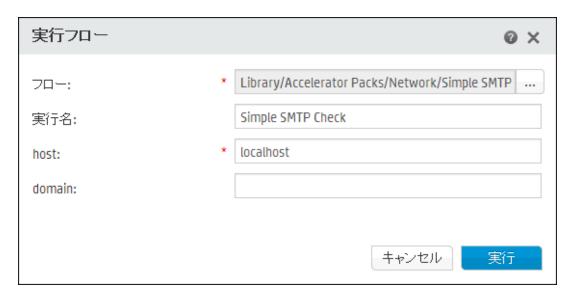
8. [実行]をクリックします。

[フローライブラリ] からのフローの実行

- 1. [**コンテンツワークスペース**] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
- 2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
- 3. フローライブラリ内のフローを参照します。
- 5. [実行フロー] ダイアログボックスに、このフロー実行の名前を入力します。

デフォルトでは、実行名はフロー名ですが、変更可能です。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。

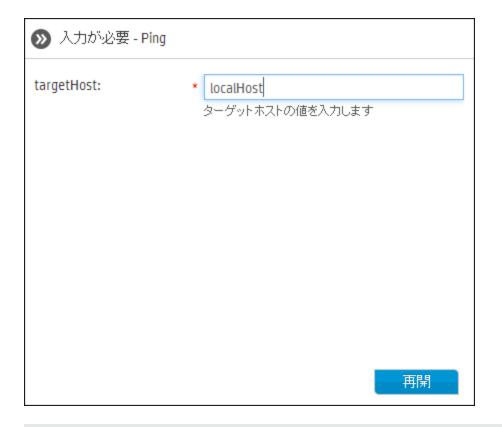
6. [実行フロー] ダイアログボックスで、実行に対して必要な入力を行います。



7. [実行]をクリックします。

インタラクティブフローの実行

- 1. [フローライブラリ] または [エクスプローラーの実 行] からインタラクティブフローを実 行します。
- 2. 実行がインタラクティブポイント ([**入力が必要**]、[ハンドオフ]、[メッセージの表示] など) に到達すると、そのステータスは [一時停止 -操作が必要] に変わります。
- 3. [エクスプローラーの実行] で実行を選択し、行の末尾にある[**ドリルダウン**]
 ♪ ボタンをクリックして、[実行情報] ウィンドウを表示します。
- 4. 《 ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。



注: [入力が必要] ダイアログボックスの左側にある ²²² ボタンをクリックすると、再度非表示にできます。

5. メッセージを読み、その指示に従って実行を再開します。 つまり、必要な入力やハンドオフなどを行い、[**再開**] をクリックします。

さまざまなステータスについては、「フロー実行の追跡」(116ページ)を参照してください。

ゲート制御式トランジションがあるフローの実行

ゲート制御式トランジションは、次のステップへのアクセスを、特定の役割が割り当てられているユーザーに限定します。

注: ゲート制御式トランジションフローは、他ユーザーの実行の管理アクセス許可があるユーザーによってのみ再開できます。

- 1. [フローライブラリ] または [エクスプローラーの実 行] からフローを実 行します。
- 2. フロー実行がゲート制御式トランジションに到達したときに、必要なアクセス許可を持つ役割が ユーザーに割り当てられていない場合、フロー実行は一時停止されます。実行ステータスには、 [一時停止-操作が必要]と表示されます。

- 3. 行の末尾にある[**ドリルダウン**] > ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
- 4.
 《 ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
- 5. プロンプトメッセージで、[別 のユーザーにハンドオフ (この実 行を電子メール送信)] リンクをクリックして、フロー実 行を完了する必要があるユーザーに送信する電子メールメッセージを作成します。
- 6. 電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされる ユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールア ドレスを入力し、メッセージを送信します。

ハンドオフトランジションがあるフローの実行

ハンドオフトランジションとは、現在のユーザーがフロー実行を別のユーザーにハンドオフすることを推奨するメッセージが表示されるものです。 ゲート制御式トランジションとは異なり、最初のユーザーに、フロー実行を別のユーザーにハンドオフせずに再開できるオプションがあります。

- 1. [フローライブラリ] または [エクスプローラーの実 行] からフローを実 行します。
- 2. フロー実行が、いドオフトランジションに到達すると、フロー実行は一時停止されます。実行ステータスには、「一時停止・操作が必要」と表示されます。
- 3. 行の末尾にある[**ドリルダウン**] > ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
- 4.
 《 ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
- 5. 次の2つのオプションがあります。
 - フロー実行を別のユーザーにハンドオフするには、[別のユーザーにハンドオフ (この実行を電子メール送信)] をクリックします。電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされるユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールアドレスを入力し、メッセージを送信します。
 - [再開]をクリックして、ハンドオフせずにフローを続行します。

[一時停止 - グループにワーカーが存在しません] ステータスのフローの実行

ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがある場合、フローのステータスは [一 **時停止 - グループにワーカーが存在しません**] になります。実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップする必要があります。詳細については、「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。

- 1. [フローライブラリ] または [エクスプローラーの実 行] からフローを実 行します。
- 2. フロー実行は、ワーカーが存在しないワーカーグループに関連するポイントに到達すると、一時停止します。実行ステータスには、[一時停止・グループにワーカーが存在しません]と表示されます。

- 3. 行の末尾にある[**ドリルダウン**] > ボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。
- 4.
 《 ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。
- 5. ワーカーグループを関連するワーカーにマップします。詳細については、「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。
- 6. 一時停止メッセージに戻り、[再開]をクリックします。

外部からのフローの実行

リンクを Web サイトのフローに埋め込んで、その Web サイトからフローを実行するようにできます。

- 1. [**コンテンツワークスペース**] **ボ**タンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
- 2. [フローライブラリ] タブをクリックします。
- 3. フローをクリックして、その詳細を右側にある[情報]ペインに表示します。
- 4. [リンクの実行] セクションのテキストをコピーし、このリンクを Web サイトに埋め込みます。

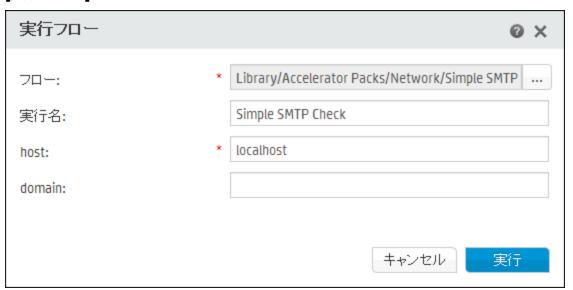
リンクの実行: http://16.59.63.164:8293/oo/trigger.html#deb358b4-8bee-4e27-92d4-af01e6e62c7e

ユーザーが Web サイトでこのリンクをクリックすると、トリガーダイアログボックスが開き、フローを実行できるようになります。 入力 が必須な場合は、ダイアログボックスに関連する入力が組み込まれます。

注: リンクをクリックすると表示される内容をテストするには、[リンクの実行] セクションのリンクをクリックして、トリガーダイアログボックスを開きます。

参照情報

[実行フロー] ダイアログボックス



GUI アイテム	説明			
フロー	フローへのパスを表示します。			
実行名	[実行名] ボックスに、実行の名前を入力します。			
	名前は元のフローと同じである必要はありません。特定の実行を識別できるような名前を実行に付ける必要がある場合があります。たとえば、同じフローを複数回、それぞれ別の入力を使用して実行する場合などです。実行に名前を付けると、入力を基に実行を識別しやすくなります。			
<入力フィールド>	必要に応じて入力を行います。入力フィールドの数とそのラベルは、選択 したフローで必要な入力によって異なります。			
実行	クリックしてフローを実行します。			

フロ一実行のスケジューリング

たとえば、多数のサーバーがオンラインであるかどうかを定期的にチェックする必要があるとします。この場合、IP アドレスをチェックするフローを定義し、そのフローを実行するスケジュールを作成できます。

スケジュールは [**スケジューラー**] タブに表示されます。 スケジュールの表示は、役割に割り当てられているアクセス許可に依存します。

- スケジュールの表示アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、HP OO スケジュールとその詳細を表示できます。
- スケジュールの管理アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、スケジュールを表示および編集できます。



スケジュール所有者

それぞれのスケジュールには所有者があります。所有者はスケジュールを作成したユーザーです。所有者の名前は、[スケジューラー] と[エクスプローラーの実行] の [ユーザー] 列に表示されます。

- [スケジューラー] タブでは、[ユーザー] 列 がスケジュール所 有者を示します。
- [エクスプローラーの実行] タブでは、[ユーザー] 列 はこのフロー実 行 の所 有 者 (スケジュールされた 実 行 を行うユーザー) を示します。

別のユーザーがスケジュールを更新すると(繰り返し、名前、タイムゾーンなど)、スケジュール所有者がこのユーザーに変わります。このユーザーは、[スケジューラー] ではスケジュール所有者として、[エクスプローラーの実行] ではフロー実行者として表示されます。

注: 新しい所有者は、変更後に開始した実行に対してのみ表示されます。変更前に開始した実行の場合、元の所有者が[ユーザー]列に表示されます。

スケジュールが匿名 ユーザーとしてログインしているユーザーによって作成または更新されると、[ユーザー] 列には N/A と表示されます。



注: スケジュールされたフローの実 行 アクセス許 可 を持 たないユーザーがスケジュールを更 新 する と、このフローは実 行 されません。

注: LDAP 構成が存在し、構成された LDAP サーバーが応答しない場合、これはすべての種類のスケジュールに影響します。これには、LDAP ユーザーによって実行されるスケジュールと内部ユーザーによって実行されるスケジュールの両方が含まれます。

実行する操作

既存のスケジュールの表示

[スケジューラー] タブを表示するには、スケジュールの表示 アクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。

- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。表 に、次の情報を含む現在のすべてのスケジュールが表示されます。
 - ★態:スケジュールが有効● または無効● になっているかどうかを表示します。
 - スケジュール名: このスケジュールに指定された名前を表示します。この値は、[スケジュールの編集] ダイアログボックスで編集できます。
 - **フロー名**: スケジュールが関係するフローの名前を表示します。この値はフローから取得され、スケジュールでは変更できません。
 - 次の実行:次の実行の開始がスケジュールされている日時を表示します。日時はユーザーのタイムゾーンで表示されます。
 - **前の実行**: 前の実行が開始された日時を表示します(存在する場合)。
 - ユーザー: このスケジュールを作成または変更したユーザーの名前を表示します。

スケジュールの詳細の表示

[スケジュールの詳 細] ダイアログボックスでは、ドリルダウンすると、スケジュールの詳 細を表示できます。 この機能は、**スケジュールの表示**アクセス許可 はあるが、スケジュールを編集するアクセス許可が

ないユーザーにとって便利です。

詳細の中には、[**スケジューラー**] タブの表に表示されない情報 (繰り返しパターン、繰り返し範囲、スケジュールが実行されるタイムゾーンなど)が含まれています。

スケジュールの詳細を表示するには、次の手順を実行します。



―ス] 🍊 ボタンをクリックして、実 行 ワークスペースを表 示します。

- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. 表示するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[スケジューラー] ツールバーの [詳細] ① ボタンをクリックします。選択したスケジュールの詳細が、[スケジュールの詳細] ダイアログボックスに表示されます。

注: [詳細] ボタンを使用できるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。

4. スケジュールの詳細の表示が完了したら、[OK]をクリックします。

スケジュールの編集

スケジュールを編集するには、**スケジュールの管理**アクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。

スケジュールを編集するには、次の手順を実行します。

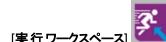


- 1. [実行ワークスペース] 「オタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. 編集するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[スケジューラー] ツールバーの[編集] / ボタンをクリックします。
- 4. [スケジュールの編集] ダイアログボックスでスケジュールに対して必要な変更を行い、[**保存**] をクリックします。

スケジュールのクローン作成

[スケジューラー] タブに表示されるスケジュールと同じコピーを作成できます。[スケジュールのクローン] ダイアログボックスでは、このスケジュールに対して必要な変更を行うことができます。

スケジュールのクローンを作成するには、次の手順を実行します。



- . [実行ワークスペース] 「ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。

3. クローンを作成するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[**スケジューラー**] ツールバーの [**クローン**] ^{□□} ボタンをクリックします。

注: [クローン] □ ボタンが有効になるのは、1つのスケジュールを選択した場合のみです。

[スケジュールのクローン] ダイアログボックスが開きます。 ダイアログボックスのすべてのフィールドには、選択したスケジュールの値が入力されます。

- 4. 必要に応じて、[スケジュールのクローン] ダイアログボックスのスケジュールの詳細を編集します。 クローンに別の名前を指定することもできます。
- 5. [保存] をクリックします。

スケジュールの削除

1 つまたは複数のスケジュールを削除できます。

スケジュールを削除するには、次の手順を実行します。



- 1. [実行ワークスペース]
- ▼ボタンをクリックして、実 行 ワークスペースを表 示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. 削除するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択し、[スケジューラー] ツールバーの [削除] X ボタンをクリックします。
- 4. 確認ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

選択したスケジュールが [スケジューラー] タブから削除されます。

スケジュールの有効化

デフォルトでは、新しいスケジュールを作成すると、そのスケジュールは有効になります。スケジュールが無効になっている場合、スケジュールを実行する前に有効にする必要があります。1 つまたは複数のスケジュールを有効にできます。

フロー実行のスケジュールを有効にするには、次の手順を実行します。



- 1.[**実行ワークスペース**] 🍊 🤍 ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブで、無効から有効に変更するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
- 3. [スケジューラー] ツールバーで、[有効にする] ② をクリックします。

注: [**有効にする**] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 つの無効なスケジュールを選択した場合のみです。

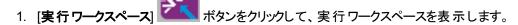
4. 確認ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

このスケジュールの [状態] 列のアイコンが [有効] に変わります。

スケジュールの無効化

1 つまたは複数のスケジュールを無効にできます。無効にしたスケジュールは [**スケジューラー**] タブに残りますが、有効にするまで実行できません。

フロー実行のスケジュールを無効にするには、次の手順を実行します。



- 2. [スケジューラー] タブで、有効から無効に変更するスケジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
- 3. [スケジューラー] ツールバーで、[無効にする] 🔕 をクリックします。

注: [無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの有効なスケジュールを選択した場合のみです。

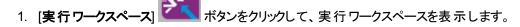
4. 確認ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

このスケジュールの [状態] 列のアイコンが [無効] に変わります。

スケジュールの表 示 のフィルタリング

[スケジューラー] タブに表示されるスケジュールは、フィルタリングできます。 [スケジューラー] タブに表示されるスケジュールが多数ある場合、これでスケジュールをすばやく検索できます。 たとえば、接続性に関連するフローのスケジュールを検索している場合、フィルターに使用する語として「接続」と入力します。

注: フィルターの大文字と小文字は区別されません。



- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. [**フロー名 でフィルター**] ボックスに、検索 するスケジュールで使用されているフローの名前を入力します。正確な名前が不明な場合は、名前の一部を入力します。

名前にこのテキストを含むフローのスケジュールのみが、[スケジューラー] タブに表示されます。

スケジュールの表示の更新

別 のユーザーが別 のクライアントでスケジュールを作成、削除、有効または無効にした場合、このスケジュールはページを更新するまで、[**スケジューラー**] タブに表示されません。

スケジュールの表示を更新するには、次の手順を実行します。

- 1. [**実行ワークスペース**] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. [スケジューラー] ツールバーで、[リフレッシュ] [©] をクリックします。

注: ブラウザーの更新コマンド (たとえば、F5 や Ctrl+R などのキーの組み合わせ)を使用してページを更新することもできますが、この場合ページ全体がロードされます。[リフレッシュ] ボタンをクリックした場合、スケジュールデータの表示だけが更新されるため、高速です。

スケジュールの表示のソート

[**スケジューラー**] タブに複数 のスケジュールが表 示される場合、任意の列見出しに従ってソートすることができます。

- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. スケジュールのソートに使用する列見出しをクリックします。
 デフォルトでは、スケジュールは [次の実行] 列の昇順でソートされます。ソートに使用された列見出しの横に、昇順アイコン か表示されます。
- 4. 順序を逆にしてスケジュールを降順にソートする場合は、列見出しを再度クリックします。

スケジュールが降順にソートされ、列見出しの横に降順アイコン 🔻 が表示されます。

スケジュールの表示におけるページ編集の調整

[スケジューラー] タブの複数のページにスケジュールが表示される場合、ページ移動バーを使用してページ間を移動できます。

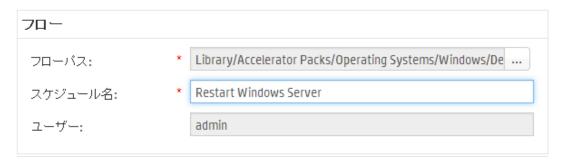
- 1. [**実行ワークスペース**] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [スケジューラー] タブをクリックします。
- 3. ページ移動バー を使用して、ページ間を移動します。中央のボックスに特定のページの番号を入力するか、ボタンをクリックして以下のページに移動します。
 - 最初のページ
 - 前のページ
 - 次のページ
 - 最後のページ

スケジュールの作成

スケジュールを作成するには、**スケジュールの表示とスケジュールの管理**のアクセス許可を持つ役割が割り当てられているユーザーアカウントでログインする必要があります。

- 1. 新しいスケジュールは、[スケジューラー] または [フローライブラリ] から作成できます。
 - [フローライブラリ] からスケジュールを作成するには、次の手順を実行します。
 - i. [コンテンツワークスペース] ボタンをクリックして、コンテンツワークスペースを表示します。
 - ii. [フローライブラリ] タブをクリックします。
 - iii. [フローライブラリ] からフローを選択します。
 - iv. [**スケジュール**] ^{**} ボタンをクリックします。[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開きます。
 - [スケジューラー] からスケジュールを作成するには、次の手順を実行します。
 - i. 「**実行ワークスペース**」 ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
 - ii. [スケジューラー] タブをクリックします。
 - iii. [スケジューラー] ツールバーで、[作成] ^{*し} ボタンをクリックします。

- iv. スケジュールを作成するフローを選択して、[**OK**]をクリックします。[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開きます。
- 2. [スケジュール名] ボックスに、このスケジュールのわかりやすい名 前を入力します。



- 3. [繰り返しパターン] セクションで、スケジュールの繰り返し頻度のいずれか(毎日、毎週、毎月)を選択します。
 - 毎日: フローを毎日実行するには、[毎日] および次のいずれかを選択します。



○ 日付: フローを毎日一定の間隔で実行するには、[日付]を選択して、値を入力し、[分] または[時間]を選択します。

注: [日付] を選択した場合、間隔フィールドは空のままにできず、値は1以上にする必要があります。

毎日:フローを毎日1回実行する場合に選択します。

注: フロー実行は、[**繰り返し範囲**] セクションの[**開始時刻**] フィールドに設定されている時間に開始されます。

○ **毎日 (平日)**: フローを1日1回、平日のみ実行する場合に選択します。

注: 週の稼働日が月曜日~金曜日でない場合は、代わりに[毎週]オプションを使用して稼働日を選択します。

■ 毎週: フローを毎週実行するには、[毎週] を選択して、フローを実行する曜日を選択します。

繰り返しパターン								
○ 毎日		☑ 月	☑ 火	口水	口木			
⊙ 毎週	□金	口土						
○ 毎月								
〇 毎年								

注: [毎週]を選択する場合、少なくとも1つの曜日を選択する必要があります。

■ 毎月: フローを毎月実行するには、[毎月] および次のいずれかを選択します。



- フローを毎月特定の日に実行するには、[**日付**] を選択して、日付を選択します。 たとえば、フローを毎月 15日に実行するには、[**15**] を選択します。
- フローを毎月1回、特定の曜日に実行するには、曜日およびその曜日が月の第1週、第2週、第3週、第4週、最終週かを選択します。たとえば、毎月第3金曜日にスケジュールを実行するには、[第3]、[金曜日]、[1]か月の順に選択します。
- フローを数か月の間隔で実行するには、月数を選択します。たとえば、四半期に1回、四半期の最初の月曜日にスケジュールを実行するには、[**第 1**]、[**月曜日**]、[**3**] か月の順に選択します。

たとえば、2013 年 4 月 1 日 に開始し、2013 年 12 月 20 日 に終了するスケジュールで、繰り返しパターンが2 か月ごとの3 日 の場合、フローが実行されるのは、6 月 3 日、8 月 3 日、10 月 3 日、12 月 3 日になります。

- フローを月の最終日に実行するには、特定の曜日でなく、[**最終**]を選択して、[**曜日**]を 選択します。
- 毎年: フローを毎年1回実行するには、[毎年] および次のいずれかを選択します。



- フローを毎年特定の日に実行するには、[**日付**] を選択して、月日を選択します。たとえば、毎年7月4日です。
- フローを毎年1回、特定の月日に実行するには、[曜日]を選択してから月を選択し、曜日およびその曜日が月の第1週、第2週、第3週、第4週、最終週かを選択します。 たとえば、毎年11月の第2月曜日です。
- 4. [繰り返し範囲] セクションの[開始日] ボックスに、フロースケジュールを開始する日付を入力します。

注: 日付が過去のスケジュールのコンテンツがアップグレードされると、開始日は現在の日付に変更されます。



注:日付の形式は、クライアントブラウザーのロケールに従って表示されます。

- 5. [開始時刻] ボックスに、フロースケジュールを開始する時刻を時間と分で入力します。
- 6. [タイムゾーン] リストから、自分のいる場所のタイムゾーンを選択します。

注:世界中のタイムゾーンは、世界協定時刻 (UTC) からのプラスまたはマイナスのオフセット値で表されます。スケジュールを作成すると、デフォルトで現在使用可能なアルファベット順のリストからタイムゾーンが選択されます。 HP OO では、最初のタイムゾーンは、クライアントのオフセット値 (該当する場合は、夏時間で計算される) と等しいタイムゾーンがリストから選択されます。

このタイムゾーンは、地理的に正しくない場合があることに注意してください。たとえば、現在の場所のタイムゾーンがUTC-09.00である場合、デフォルトのタイムゾーンは、アメリカ/アンカレッジになります。必要に応じて、[タイムゾーン] リストから地理的に正しい場所を選択することもできます。

(UTC-09:00) アメリカ/アンカレッジ

(UTC-09:00) アメリカ/ジュノー (UTC-09:00) アメリカ/ノーム (UTC-09:00) アメリカ/シトカ (UTC-09:00) アメリカ/ヤクタット (UTC-09:00) 太平洋/ガンビエ諸島

- 7. スケジュールを終了する時点を選択します。
 - スケジュールの終了日を設定しない場合は、[終了日なし]を選択します。
 - スケジュールの実行回数を特定の数に制限するには、[**実行回数**]を選択して、それ以降スケジュールを停止する実行回数を入力します。このオプションは、時間数または分数の間隔で実行するように設定された毎日のスケジュールに対してのみ使用できます。
 - スケジュールを特定の日付で終了するには、[**終了日**]を選択して、それ以降スケジュールを 停止する日付を入力します。
- 8. フローに入力が必要な場合、右側にある[**入力**] セクションに入力します。入力ボックスの横に 赤色の星が表示される場合、入力が必須で、入力値を指定するまで[**保存**] ボタンは有効に なりません。



9. [保存] をクリックします。

注: [保存] ボタンが有効になっていない場合は、必須の入力が指定されていないか、ダイ

アログボックスのいずれかのフィールドに誤りがあります。たとえば、2月31日などの存在しない日付が入力されているか、毎週の繰り返しパターンで曜日が選択されていない場合、 [**保存**] ボタンは有効になりません。

参照情報

[スケジューラー] タブ

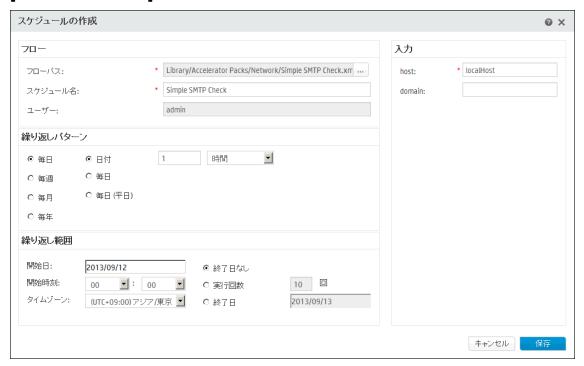
ェクスプローラーの実行 **スケジューラ**ー

*0 *	/ × @					フロー名で フィルター
	状態	スケジュール名	フロー名	次の実行 🛊	前の実行	ユーザー
	\oslash	Simple SMTP Check	Simple SMTP Check	2013年9月14日午後9時 50分土曜日		admin
V	⊘	Restart Windows Server	Restart Windows Server	2013年9月14日午後11 時46分土曜日		admin
	⊘	Windows Health Check	Windows Health Check	2013年9月16日午後10 時49分月曜日		admin

GUI アイテム	説明
[作成] *** ボタン	[スケジュールの作成] ダイアログボックスが開き、新しいスケジュールを追加できます。
[編集] グボタン	[スケジュールの編集] ダイアログボックスが開き、選択したスケジュールを編集できます。[編集] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 つのスケジュールを選択した場合のみです。
[削除] × ボタン	選択したスケジュールを削除します。[削除] ボタンを使用できるのは、 少なくとも 1 つのスケジュールを選択した場合のみです。
[有効にする] 🕜 ボタン	選択したスケジュールを有効にします。[有効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも 1 つの無効なスケジュールを選択した場合のみです。
[無効にする] 🕴 ボタン	選択したスケジュールを無効にします。[無効にする] ボタンを使用できるのは、少なくとも1つの有効なスケジュールを選択した場合のみです。
[クローン] 🗅 ボタン	選択したスケジュールと同じコピーを作成します。[クローン] ボタンが有効になるのは、1 つのスケジュールを選択した場合のみです。
[詳細] ① ボタン	選択したスケジュールの詳細を表示します。[詳細] ボタンが有効になるのは、1 つのスケジュールを選択した場合のみです。
[リフレッシュ] つ ボタン	スケジュールの表示を更新します。

GUI アイテム	説明
フロー名 でフィルター	[スケジューラー] タブに表示されるスケジュールをフィルタリングし、[フロー名] ボックスに入力された名前を持つスケジュールのみを表示します。
状態	スケジュールが有効 または無効 になっているかどうかを表示します。
スケジュール名	スケジュールに指定された名前を表示します。
フロ一名	スケジュールで実行されるフローの名前を表示します。
次の実行	次回の実行がスケジュールされている時刻を表示します。
前の実行	スケジュール内の前回の実行が開始された時刻を表示します。
ユーザー	スケジュールを作成または変更したユーザーの名前を表示します。
	スケジュールが匿名ユーザーとしてログインしているユーザーによって作成または更新されると、[ユーザー]列にはN/Aと表示されます。
昇順アイコン◆	スケジュールが昇順にソートされ、ソートに使用された列見出しの横に 昇順アイコン 葊 が表示されます。
降順アイコン	スケジュールが降順にソートされ、ソートに使用された列見出しの横に 降順アイコン が表示されます。
ページ移動バー	(2))
	スケジュールのすべてが1つのページに収まらない場合は、ページ移動 バーを使用してページ間を移動します。中央のボックスに特定のページ の番号を入力するか、ボタンをクリックして以下のページに移動します。
	最初のページ
	前のページ
	次のページ
	最後のページ

[スケジュールの作成] ダイアログボックス





GUI アイテム	説明		
毎日 - <n> 分/時間ごと</n>	フローを毎日一定の間隔で実行するには、[毎日]を選択し、[日 付]を選択して、値を入力し、[分]または[時間]を選択します。		
	注: [日付] を選択した場合、間隔フィールドは空のままにできず、値は1以上にする必要があります。		
毎日-毎日	フローを1日1回、すべての曜日に実行するには、[毎日]を選択して、[毎日]を選択します。		
	注: フロー実行は、[繰り返し範囲] セクションの[開始時刻] フィールドに設定されている時間に開始されます。		
毎日-毎日 (平日)	フローを毎日 (平日)実行するには、[毎日]を選択して、[毎日 (平 日)]を選択します。		
	注: 週の稼働日が月曜日~金曜日でない場合は、代わりに [毎週] オプションを使用して稼働日を選択します。		
繰り返しバターン			
○毎日 □日	☑月 ☑火 □水 □木		
⊙ 毎週 □ 金	口土		
○ 毎月			
C 毎年			
毎週	フローを毎週実行するには、[毎週]を選択して、フローを実行する曜日を選択します。		
	注: [毎週] を選択する場合、少なくとも1つの曜日を選択する必要があります。		



GUI アイテム		説明		
[繰り返し範囲] -	セクション	[繰り返し範囲] セクションでは、スケジュールの開始時点と終了時点を定義します。		
繰り返し範囲				
開始日: 開始時刻: タイムゾーン:		2 ▼: 00 ▼ 00)アジア/東京 ▼	終了日なし実行回数終了日	2013/09/13
開始日				ンテンツがアップグレードされ
開始時刻		スケジュールを開始	する時刻を入力し	ます。
終了日なし		スケジュールを継続	的に実行するかど	うかを選択します。
実行回数 <n></n>		択して、それ以降に	スケジュールを停止 寺間数または分数	限するには、[実行回数]を選する実行回数を入力します。 の間隔で実行するように設定 み使用できます。
終了日 <日付>				るには、[終了日] を選択し 日付を入力します。

GUI アイテム	説明
タイムゾーン	[タイムゾーン] リストから、自分のいる場所のタイムゾーンを選択します。
	注: 世界中のタイムゾーンは、世界協定時刻 (UTC) からのプラスまたはマイナスのオフセット値で表されます。スケジュールを作成すると、デフォルトで現在使用可能なアルファベット順のリストからタイムゾーンが選択されます。HP OO では、最初のタイムゾーンは、クライアントのオフセット値 (該当する場合は、夏時間で計算される) と等しいタイムゾーンがリストから選択されます。 このタイムゾーンは、地理的に正しくない場合があることに注意してください。たとえば、現在の場所のタイムゾーンがUTC-09.00である場合、デフォルトのタイムゾーンは、アメリカ/アンカレッジになります。必要に応じて、[タイムゾーン] リストから地理的に正しい場所を選択することもできます。
	(UTC-09:00) アメリカ/アンカレッジ (UTC-09:00) アメリカ/ジュノー (UTC-09:00) アメリカ/ノーム (UTC-09:00) アメリカ/シトカ (UTC-09:00) アメリカ/ヤクタット (UTC-09:00) 太平洋/ガンビエ諸島
入力	
host:	* XXXX
domain:	
入力	フローに入力が必要な場合、[入力] セクションに入力します。このセクションの表示は、入力が必須かどうかに応じて変わります。
保存	クリックしてスケジュールを保存します。

フロー実行の追跡

♪ プローの実行中、[エクスプローラーの実行] タブで実行を追跡し、その進捗状況を監視できます。表に、自分の実行とほかのユーザーの実行の基本的な監視情報が表示されます。

- 実行名
- 実行 ID
- ステータス:



完了 - 解決済み



完了 - エラー



完了 - 操作なし



完了.診断済み



完了できませんでした: 実行時間例外のため



キャンセル済み



実行中



一時停止 - ユーザーによる一時停止

一時停止 - 操作が必要: 実行は、操作が完了するまで続行されません。たとえば、不足している情報を入力したり、次のステップを実行するアクセス許可があるユーザーに変更したりします。

ー時停止 - グループにワーカーが存在しません: ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがあります。 実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップしてください。 「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。

ー時停止の保留中: ユーザーが実行の一時停止を求めましたが、実行はまだ一時停止されていません。

キャンセルの保留中: ユーザーが実行のキャンセルを求めましたが、実行はまだキャンセルされていません。

- **実行中・分岐の一時停止**: 実行の分岐が一時停止されます。
- ユーザー: フローを実行または再開する最後のユーザー
- 開始時刻
- 期間



[エクスプローラーの実行] は、実行ステータス、経過時間、およびユーザーが更新されると、自動更新されます。ただし、[エクスプローラーの実行] を開いた後で実行を開始すると、ページを更新するまで、この実行は[**エクスプローラーの実行**] タブに表示されません。[**リフレッシュ**] ボタンの横に、新しい実行があることを知らせるメッセージが吹き出しで表示されます。

このトピックでは、実行に関する詳細を追跡および表示する方法について説明します。フロー実行に対して、一時停止、再開、キャンセルなどの操作を実行する方法については、「フロー実行の管理」(122ページ)を参照してください。

実 行 の表 示 のフィルタリングについては、「フロー実 行 の表 示 のフィルタリング」(128ページ)を参 照してください。

実行する操作

フロー実行に関する基本情報の表示

- 1. [**実行ワークスペース**] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [エクスプローラーの実行] タブをクリックします。
- 3. 実行表に、各実行の基本情報が表示されます。

フロー実行に関する詳細情報の表示

- 1. [**エクスプローラーの実行**] タブをクリックします。
- 2. 詳細を確認するフロー実行を選択します。
- 3. 各行の末尾にある[**ドリルダウン**] ** ボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。詳細については、「フロー実行のテストとトラブルシューティング」(132ページ)を参照してください。

注:[ドリルダウン] がタンは、表の行を選択した場合にのみ表示されます。

参照情報

[エクスプローラーの実行]タブ



GUI アイテム	説明
[一時停止] Ⅱ ボタン	クリックして選択した実行を一時停止します。実行は再開されるまで 停止します。
[再開] ▶ ボタン	クリックして選択した実行を再開します。このボタンは、一時停止している実行に対してのみ使用できます。
[キャンセル] 〇 ボタン	クリックして選択した実行をキャンセルします。

[リフレッシュ] ロボタン	クリックして、[エクスプロ ーラー の実行] に表示されている実行を更新 します。
[再割り当て] 🌇 ボタン	クリックしてフローを別 のユーザーに割り当 てなおします。
[フローの実行]) 実行 ボタン	クリックしてフローを実行します。
実行名	フロー実行の名前を表示します。
ユーザー	実行の現在の所有者を表示します。これは、実行をトリガーしたユーザー、実行を最後に変更したユーザー、または実行が再割り当てされたユーザーである可能性があります。
実行 ID	実行の一意の識別子を表示します。

ステータス

フロー実行の現在のステータスを表示します。オプションには、以下が含まれます。



完了 - 解決済み



完了 - エラー



完了 - 操作なし



完了 - 診断済み



完了できませんでした:実行時間例外のため



キャンセル済み



宝行山



一時停止 - ユーザーによる一時停止

ー時停止 - 操作が必要:実行は、操作が完了するまで続行されません。 たとえば、不足している情報を入力したり、次のステップを実行するアクセス許可があるユーザーに変更したりします。

ー 時停止 - グループにワーカーが存在しません: ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがあります。 実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップしてください。「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。



一時停止の保留中:ユーザーが実行の一時停止を求めまし

	たが、実行はまだ一時停止されていません。
	キャンセルの保留中 : ユーザーが実行のキャンセルを求めましたが、実行はまだキャンセルされていません。
	実行中 - 分岐の一時停止 : 実行の分岐が一時停止されます。
ユーザー	フローを実行または再開する最後のユーザー。
	この最後のユーザーが匿名ユーザーとしてログインしている場合、[ユーザー]列には N/A と表示されます。
開始時刻	実行が開始された時刻を表示します。
期間	実行が実行されている期間を表示します。この値を更新するには、F5を押します。
ドリルダウン	クリックしてドリルダウンし、フロー実行の詳細情報を表示します。

フロー実行に対して、一時停止、再開、キャンセルなどの操作を実行する方法については、「フロー 実行の管理」(122ページ)を参照してください。

フロー実行の管理

♪ ↑ [エクスプローラーの実行] を使用すると、実行中のフローが複数ある場合に、フロー実行を管理できます。これらのフロー実行に対して、一時停止、再開、再割り当て、キャンセルなどの操作を実行できます。

フロー実行は、[**エクスプローラーの実行**] タブに表示されます。実行の表示は、ユーザーに割り当てられているコンテンツアクセス許可に依存します。表示するアクセス許可があるフローの実行のみを表示できます。

フロー実行に関して実行できる操作は、次のようにユーザーの役割に割り当てられているアクセス許可に依存します。

- 他ユーザーの実行の管理アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合は、すべてのユーザーがトリガーした実行に対して操作を実行できます。
- 割り当てられている役割にこのアクセス許可がない場合は、自分がトリガーした実行に対して操作を実行できます。



[エクスプローラーの実 行] に表 示されている実 行をフィルタリングすることができます。 フィルタリングの詳細については、「フロー実 行の表 示のフィルタリング」(128ページ) を参照してください。

実行する操作

フロー実行の一時停止

- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。
- 3. 現在実行中のフローを選択します。
- 4. [エクスプローラーの実行]ツールバーの[一時停止] ボタンをクリックします。

実行ステータスが[一時停止の保留中]、[一時停止]の順に変わります。

一時停止されたフロー実行の再開

ステータスが [一時停止 - ユーザーによる一時停止] である実行を再開できます。他ユーザーの実行の管理アクセス許可を持つ役割が割り当てられている場合、他のユーザーが一時停止した実行を再開できます。このアクセス許可がない場合は、自分が一時停止した実行を再開できます。

- 1. [実行ワークスペース] > [エクスプローラーの実行] タブをクリックします。
- 2. 一時停止されたフローを選択します。
- 3. [エクスプローラーの実行] ツールバーで [**再開**] **▶** ボタンが使用できる場合、そのボタンをクリックして、実行を再開します。
- 4. [エクスプローラーの実行] ツールバーで [**再開**] **▶** ボタンが使用できない場合は、実行を完了するために、システムとやりとりする必要があります。

行の末尾にある[ドリルダウン] メボタンをクリックして、実行の詳細情報を表示します。

- 5.

 ぶ ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。必要な情報を入力します。
- 6. [再開]をクリックします。

フロー実行のキャンセル

- 1. [実行ワークスペース] > [エクスプローラーの実行] タブをクリックします。
- 2. 現在実行中のフローを選択します。
- 3. [エクスプローラーの実行]ツールバーの[**キャンセル**] ^(一) ボタンをクリックします。
- 4. 確認ダイアログボックスで、[はい]をクリックして、フロ一実行のキャンセルを確認します。

フロー実行の所有権の再割り当て

それぞれの実行には所有者があります。デフォルトでは、これは実行を開始したユーザーですが、実行を別のユーザーに割り当てることで、実行中に所有者を変更できます。

実行の所有者は、[ユーザー]列に表示されるユーザーです。

再割り当ては、通常、ゲート制御式トランジションの結果、またはハンドオフの結果としてトリガーされます。ゲート制御式トランジションとは、実行に続行するアクセス許可がないため実行が一時停止されるもので、ハンドオフとは、作成者がトランジションに別のユーザーへのハンドオフが必要というマークを付けたものです。ただし、フロー実行の任意の時点でフローを再割り当てすることもできます。フローが実行中の場合は、一時停止されて再割り当てできるようになります。

- 1. [実行ワークスペース] > [エクスプローラーの実行] タブをクリックします。
- 2. 現在実行中または一時停止されているフローを選択します。
- 3. [再割り当て] 🏗 ボタンをクリックします。
- 4. [実行の再割り当て]ダイアログボックスに、別のユーザーのユーザー名を入力します。
- 5. [再割り当て]をクリックします。

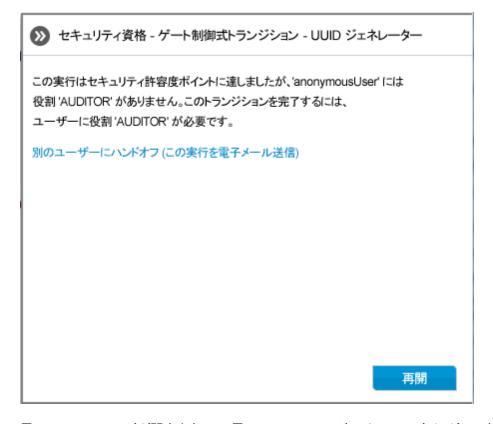
注: 実行を存在しないユーザーに再割り当てすると、再割り当ては失敗します。

フロ一実 行 のハンドオフ

ー 部 のフローにはゲート制御式トランジションが含まれているため、現在 のユーザーは実行を別の ユーザーにハンドオフする必要 があります。実行が一時停止すると、現在 のユーザーはダイアログボックスを使用して電子メールを別のユーザーに送信し、実行の続行を依頼できます。

- 1. [実行ワークスペース]>[エクスプローラーの実行]タブをクリックします。
- 2. ゲート制御式トランジションで現在一時停止されている実行を選択します。
- 3. 行の末尾にある[**ドリルダウン**] > ボタンをクリックして、選択した実行の詳細情報を表示します。
- 4. 《 ボタンをクリックして、プロンプトメッセージを展開します。

5. プロンプトメッセージで、[別 のユーザーにハンドオフ (この実 行を電子メール送信)] リンクをクリックして、フロー実 行を完了する必要があるユーザーに送信する電子メールメッセージを作成します。



6. 電子メールメッセージが開きます。この電子メールメッセージには、フロー実行がハンドオフされる ユーザーへのメッセージとフロー実行へのリンクが記載されています。このユーザーの電子メールア ドレスを入力し、メッセージを送信します。

[エクスプローラーの実行]での実行の更新

[エクスプローラーの実行] は、実行ステータス、経過時間、およびユーザーが更新されると、自動更新されます。 ただし、[エクスプローラーの実行] を開いた後で実行を開始すると、ページを更新するまで、この実行は[**エクスプローラーの実行**] タブに表示されません。

新しい実行を開始すると、[リフレッシュ] ボタンの横に、新しい実行があることを知らせるメッセージが吹き出しで表示されます。

• [エクスプローラーの実行] ツールバーの [**リフレッシュ**] で ボタンをクリックします。 新しい実行 がグリッド に追加されます。

更新後に、選択した行がクリアされていることに注意してください。

注: キーボードの F1 を押してもページを更新できますが、ページ全体がロードされます。 [リフレッ

シュ」ボタンをクリックした場合、データ表示だけが更新されるため、はるかに高速です。

参照情報

エクスプローラーの実行

[再割り当て] 🏗 ボタン

ボタン

フローの実行]

実行名

実行



クリックしてフローを別のユーザーに割り当てなおします。

クリックしてフローを実行します。

実行中のフローの名前を表示します。

ステータス

フロー実行の現在のステータスを表示します。オプションには、以下が含まれます。



完了 - 解決済み



完了 - エラー



完了 - 操作なし



完了 - 診断済み



完了できませんでした:実行時間例外のため



キャンセル済み



実行中



一時停止 - ユーザーによる一時停止

ー時停止 - 操作が必要:実行は、操作が完了するまで続行されません。 たとえば、不足している情報を入力したり、次のステップを実行するアクセス許可があるユーザーに変更したりします。

ー 時停止 - グループにワーカーが存在しません: ワーカーにマッピングされていないワーカーグループがあります。 実行を再開する前に、ワーカーグループを実際のワーカーにマップしてください。「コンテンツパックのワーカーグループエイリアスのセットアップ」(68ページ)を参照してください。



- 時停止の保留中:ユーザーが実行の一時停止を求めまし

	たが、実行はまだ一時停止されていません。
	キャンセルの保留中 :ユーザーが実行のキャンセルを求めましたが、実行はまだキャンセルされていません。
	実行中 - 分岐の一時停止 :実行の分岐が一時停止されます。
ユーザー	実行の現在の所有者を表示します。これは、実行をトリガーしたユーザー、実行を最後に変更したユーザー、または実行が再割り当てされたユーザーである可能性があります。
	この最後のユーザーが匿名ユーザーとしてログインしている場合、[ユーザー] 列には N/A と表示されます。
開始時刻	実行が開始された時刻を表示します。
期間	実行が実行されている期間を表示します。この値を更新するには、F5を押します。
[ドリルダウン] > ボタン	クリックしてドリルダウンし、フロー実行の詳細情報を表示します。

フロ一実行の表示のフィルタリング

【エクスプローラーの実行] で表示されるフロー実行をフィルターすることができます。名前に特定の語句を含むフローの実行や特定のステータスの実行のみを表示することができます。

フィルターを適用するには、[エクスプローラーの実行] ツールバーの1つまたは複数のフィルターチェックボックスをクリックして、必要なフィルター条件をすべて入力します。フィルター条件を入力すると、フィルターが適用されます。フィルターを適用するためのボタンをクリックする必要はありません。

複数のフィルターを同時に適用できます。たとえば、名前に "Ping" という語を含む失敗した実行のみを表示するように、[エクスプローラーの実行] をフィルタリングすることができます。

注: フィルターを使用している場合、[エクスプローラーの実行] に新しく追加された実行を見るにはリフレッシュボタンをクリックします。

API 経由で実行をフィルタリングすることもできます。詳細については、『HP OO 10.01 API Guide』を参照してください。



実行する操作

フロー名に基づくフィルターの作成

フィルターは大文字/小文字を区別しないため、大文字で入力しても小文字で入力しても構いません。

- 1. [**実行ワークスペース**] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。
- 3. [エクスプローラーの実行]ツールバーで、[フローパス]チェックボックスをオンにします。



この段階でのチェックボックスの選択はオプションです。[**フローパス**] テキストボックスに入力を始めると、チェックボックスは自動的にオンになります。

4. [フローパス] テキストボックスに、フロー名の一部または全部を入力します。

[エクスプローラーの実行]には、名前にこのテキストを含むフローの実行のみが表示されます。

フローステータスに基 づくフィルターの作 成

- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。
- 3. [エクスプローラーの実行]ツールバーで、[ステータス]チェックボックスをオンにします。



この段階でのチェックボックスの選択はオプションです。 ステータスを選択すると、 [ステータス] チェックボックスは自動的にオンになります。

4. **フローステータス**リストから、フィルターに使用するステータスを選択します。 複数のステータスを選択することができます。

[エクスプローラーの実行]には、選択したステータスのいずれかを含む実行のみが表示されます。

注: フィルターのステータスを選択すると、このステータスの名前がフローステータスリストのタイトルとして表示されます。

✓ ステータス: 完了 - 解... ✓

フィルターの削除

- 1. [**実行ワークスペース**] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [エクスプローラーの実行] タブをクリックします。
- 3. [エクスプローラーの実 行] ツールバーで、フィルターのチェックボックスをすべてクリアします。 フィルターの適用が解除されます。

注: フィルターのチェックボックスをクリアして、その下の選択内容を保持する場合、フィルターを保存して後で使用することができます。

参照情報

[エクスプローラーの実 行] ツールバー - フィルターのオプション



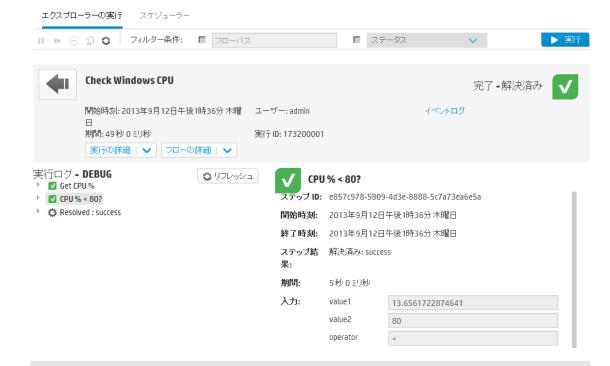
フィルター条件: フローパス	フロー名に基づいてフィルタリングするように、[フローパス] チェックボックスをオンにします。続いて、フロー名の一部または全部を入力します。
フィルター条件: ステータス	実行ステータスに基づいてフィルタリングするように、[ステータス] チェックボックスをオンにします。 続いて、ステータスリストから、フィルターに使用する 1 つまたは複数のステータスを選択します。

フロ一実行のテストとトラブルシューティング

♪ プロー実行をトリガーしたら、実行をドリルダウンして、進捗状況を詳細に調べることができます。これは、フロー実行が失敗した場合に特に役に立ちます。

[実行ログ - DEBUG] ツリーに、実行の進捗状況に関する情報が表示されます。特定のステップをクリックすると、入力、期間、結果、説明、ROI などの詳細が表示されます。

フローが失敗した場合、失敗が発生したステップが表示されます。



注:次のように実行にドリルダウンの詳細がない場合もあります。

- 実行がバージョン 9.x からのコンテンツのアップグレードによって行われる場合。
- 実行の詳細がシステムでクリアされた場合。

実行する操作

フロー実行に関する詳細情報の表示

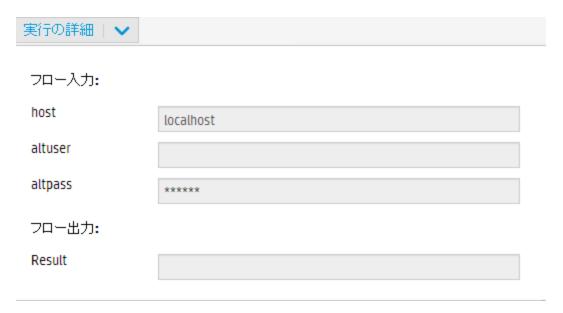
- 1. [実行ワークスペース] ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。

- 3. 詳細を確認するフロー実行を選択します。
- 4. 各行の末尾にある[**ドリルダウン**] > ボタンをクリックして、選択した実行のドリルダウン情報を表示します。
- 5. 実行ステップに関する詳細を表示するには、実行ツリーを移動できます。各ステップをクリックして、開始時刻、期間、入力、結果、説明、およびROIに関する情報を表示します。



注: このセクションに表示されるフィールドは、そのステップに入力、結果などが含まれているかどうかによって、ステップごとに異なります。

6. [実行の詳細] ボタンをクリックして、入出力などの実行に関する詳細情報を表示します。



7. [フローの詳細] ボタンをクリックして、フローに関する詳細情報を表示します。

フローの詳細 | 🗸



フローの UUID:

1fca82f0-a747-445b-b426-29bcfb3d2f3f

フロー名:

DNS Event Check

バス:

Library/Accelerator Packs/Active Directory/Deprecated/Diagnostics/DNS Event Check.xml

説明:

■ ボタンをクリックして、メインの[エクスプローラーの実行] ウィンドウに戻ります。

フロ一実 行 のイベントログの表 示

フロー実行で発生したすべてのイベントをリストしているログを表示できます。 これは、問題の原因を 特 定 するために役 立ちます。 フローの修 正 が必 要 な場 合 、 イベントログをフロー作 成 者 に送 信 すると 便利です。

イベントログには RSS 形式 (xml) があります。

- ボタンをクリックして、実行ワークスペースを表示します。
- 2. [**エクスプローラーの実 行**] タブをクリックします。
- 3. イベントログを表示するフロー実行を選択します。
- 4. [イベントログ] をクリックして、フロー実行中に発生したイベントの詳細が記載された XML ページ を表示します。
- 5. 必要に応じて、フローの変更を依頼する際に、フロー作成者にイベントログファイルを送信できま す。

参照情報

[エクスプローラーの実 行] ドリルダウン表示

ステップの詳細 セクションに含 まれるフィールド は、さまざまなステップの種 類によって異なります。

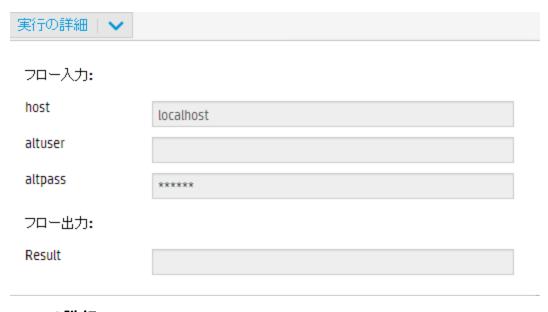


GUI アイテム	説明
[戻る] ボタン	[戻る] ボタンをクリックして、メインの [エ クスプローラーの実行] ウィンドウに戻ります。
実行の詳細	クリックしてフロー実行に関する詳細を表示します。
フローの詳細	クリックしてフローに関する詳細を表示します。
開始時刻	フロー実行が開始された時刻を表示します。
期間	フロー実行の期間を表示します。
ユーザー	フロー実行をトリガーしたユーザーの名前を表示します。
実行ログ - DEBUG	フロー実行で実行されたステップを表示します。
ステップ ID	選択したステップのUUID を表示します。
開始時刻	選択したステップが開始された時刻を表示します。
期間	選択したステップの期間を表示します。
入力	選択したステップの入力を表示します(存在する場合)。
オペレーショングループ	選択したステップのオペレーショングループを表示します(存在する場合)。
結果	選択したステップの結果を表示します(存在する場合)。

プライマリ結果	選択したステップのプライマリ結果を表示します(存在する場合)。
説明	選択したステップの説明を表示します(存在する場合)。
ROI	選択したステップのROI 値を表示します(存在する場合)。
その他のデータ	選択したステップのその他のデータを表示します(存在する場合)。

実行の詳細

フローの入出力結果を表示します(存在する場合)。表示されるフィールドは一定ではなく、実行の詳細がまったくない場合もあります。



フローの詳細

フローの詳細 | 🗸

フローの UUID:

1fca82f0-a747-445b-b426-29bcfb3d2f3f

フロー名:

DNS Event Check

バス:

Library/Accelerator Packs/Active Directory/Deprecated/Diagnostics/DNS Event Check.xml

説明:

GUI アイテム	説明
フローの UUID	フローの UUID (一意の識別子)を表示します。
フロ一名	フローの名 前を表示します。
パス	フローがある場所 へのパスを表示します。
説明	フローの説明を表示します(存在する場合)。

一般的なエラー

ファイル <cp jar 名 > を読 み取 れませんでした。ファイルが破 損している可 能 性 があります。

このエラーメッセージは、HP OO がコンテンツパックを読み取れない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

ファイル <cp jar 名 > を読み取れませんでした。ファイルが空です。

このエラーメッセージは、コンテンツパックファイルが空の場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

ファイル形 式 が正 しくありません。 <cp jar 名 > には、Lib および Content ルートフォルダーを含 める必 要 があります。

このエラーメッセージは、コンテンツパックに必要な Lib および Content フォルダーがない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

ファイル形 式 が正 しくありません。 <cp jar 名 > に contentpack.properties ファイル がありません。

このエラーメッセージは、コンテンツパックに必要なファイルがない場合に表示されます。

解決策:

ファイルが別のマシンからコピーされた場合、再度コピーを試みてください。

それ以外の場合、Studio に移動し、[コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

UUID <uuid> の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類 > がありません。これは <フロー/オペレーション>: <フローパス/オペレーション uuid> で必要になります。

このエラーメッセージは、フロー、オペレーション、または構成アイテムがない場合に表示されます。

解決策:

- 1. Studio に移動し、HP コンテンツパックまたはリポジトリ内のほかのプロジェクトで指定されたUUIDを持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
- 2. 見つかったフロー、オペレーション、または構成アイテムを含むコンテンツパックを使用して、デプロイメントユニットを再デプロイします。

UUID <uuid>の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類>がありません。これは <フロー/オペレーション>: <フローパス/オペレーション uuid> およびその他 <依存関係の数>件で必要になります。依存している項目の完全なリストについては、サーバーログを参照してください。

このエラーメッセージは、ほかのフローまたはオペレーションが依存しているエンティティ(フロー、オペレーション、または構成アイテム)がない場合に表示されます。

解決策:

- 1. サーバーログで、この不足しているエンティティに依存しているすべてのフローとオペレーションを確認してください。
- 2. Studio に移動し、HP コンテンツパックまたはリポジトリ内のほかのプロジェクトで指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
- 3. 見つかったフロー、オペレーション、または構成アイテムを含むコンテンツパックを使用して、デプロイメントユニットを再デプロイします。

デプロイメント 中 に例 外 が発 生しました。 詳 細 についてはサーバーログを確 認してください。

このエラーメッセージは、多くの異なる状況で表示される可能性があり、デプロイメント中に例外を発生させます。

解決策:

サーバーログで、例外の詳細を確認してください。

デプロイしようとしているコンテンツパックは、以前にデプロイされています。以前のデプロイメントでは、このコンテンツパックにはデプロイ済みのほかのコンテンツパック (<1 つまたは2 つのコンテンツパック名>)で使用されるエンティティ (UUID が <uuid>の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類>)が含まれていました。現在デプロイしようとしているコンテンツパックにはこのエンティティがありません。

このエラーメッセージは、すでにデプロイされているコンテンツパックを現在デプロイしようとして、このコンテンツンパックに、ほかのデプロイ済みのコンテンツパックで使用されているエンティティが含まれていたが、デプロイ中のバージョンにそのエンティティがない場合に表示されます。

解決策:

オプション 1: Studio に移動し、現在デプロイしようとしている以前のバージョンのコンテンツパック内で指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索し、それを現在のバージョンのコンテンツパックに追加します。

オプション 2: Studio に移動し、依存しているコンテンツパックで、指定されたフロー、オペレーション、または構成アイテムの依存関係を削除し、それらのコンテンツパックも再デプロイします。

デプロイしようとしているコンテンツパックは、以前にデプロイされています。以前のデプロイメントでは、このコンテンツパックにはデプロイ済みのほかのコンテンツパック (<1 つまたは 2 つのコンテンツパック名 >) およびその他 <依存しているコンテンツパックの数 > 件で使用されているエンティティ (UUID が <uuid>の <フローまたはオペレーション/構成アイテムの種類>) が含まれていました。現在デプロイしようとしているコンテンツパックにはこのエンティティがありません。依存しているコンテンツパックの完全なリストについては、サーバーログを参照してください。

このエラーメッセージは、 すでにデプロイされているコンテンツパックを現在 デプロイしようとして、 このコンテンツンパックに、 ほかのデプロイ済 みのコンテンツパックで使用されているエンティティが含まれていたが、 デプロイ中 のバージョンにそのエンティティがない場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、この不足しているエンティティに依存しているすべてのコンテンツパックを確認してください。

オプション 1: Studio に移動し、現在デプロイしようとしている以前のバージョンのコンテンツパック内で指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索し、それを現在のバージョンのコンテンツパックに追加します。

オプション 2: Studio に移動し、依存しているコンテンツパックで、指定されたフロー、オペレーション、または構成アイテムの依存関係を削除し、それらのコンテンツパックも再デプロイします。

UUID <uuid> のフローには <スケジュールされたタスクの数 > 個 のスケジュールされた タスクがあり、これらは削除されます。

この警告 メッセージは、デプロイ済 みのコンテンツパックにタスクがスケジュールされたフローが含まれていて、このコンテンツパックの新しいバージョンをデプロイすることによって、フローが削除される場合に表示されます。

解決策:

修正するものはありません。

<フロー名 > のスキーマの検査でエラーが発生しました。<XMLパーサーの例外 >。 このエラーメッセージは、スキーマが正しく検証されていない場合に表示されます。

解決策:

Studio に移 動し、「コンテンツパックの作成]を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

重 複 するパスを持 つフローをデプロイしようとしています。 このパスは、デプロイメントユニット の別 のコンテンツパックのフローか、 もしくは以 前 にデプロイされたフローにすでに存 在します。 エラーの詳 細を表示 するには、 サーバーログレベルを DEBUG に設定してデプロイメントをもうー 度実行してください。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、デプロイメントユニット内の別のコンテンツパックの別のフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

- 1. フローパス、フローの UUID、およびコンテンツパック名 の詳 細 を表 示 するには、サーバーログレベル を DEBUG に設 定 してデプロイメントを再 度 実 行 します。次 のいずれかのエラーを受 信 します。
 - 重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。 このパスを持つフローは、以前にデプロイされています。
 - 重複するパス <フローパス> を持つフローをデプロイしようとしています。 このパスを持つフローは、 コンテンツパック <コンテンツパックの名前 > に存在しています。
- 2. Studio で、重複がなくなるようにいずれかのコンテンツパックを変更し、コンテンツパックを再デプロイします。必要な変更の詳細については、以下の該当するエラーメッセージのセクションを参照してください。

重 複 するパス <フローパス> を持 つフローをデプロイしようとしています。 このパスを持つフローは、以 前 にデプロイされています。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、以前にデプロイされたフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

Studio で、フローのパス (いずれかのフォルダー名 またはフロー名) を変更し、コンテンツパックを再デプロイします。

重 複 するパス <フローパス> を持 つフローをデプロイしようとしています。このパスを持つフローは、コンテンツパック <コンテンツパックの名 前 > に存 在 しています。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフローのパスが、デプロイメントユニット内の別のコンテンツパックの別のフローのパスと同じである場合に表示されます。

解決策:

Studio で、フローのパス (いずれかのフォルダー名 またはフロー名) を変 更し、コンテンツパックを再 デプロイします。

重 複 する名 前 <システムプロパティ名 > を持 つシステムプロパティをデプロイしようとしています。 この名 前 は、 コンテンツパック <コンテンツパックの名 前 > のシステムプロパティにすでに存 在します。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるシステムプロパティが、デプロイメントユニットの別のコンテンツパックにすでに存在している場合に表示されます。

解決策:

Studio で、システムプロパティの名 前を変更し、コンテンツパックを再デプロイします。

重 複 する UUID <uuid> を持 つ <フローまたはオペレーション/構 成 アイテムの種 類 > をデプロイしようとしています。 この UUID は、 コンテンツパック <コンテンツパックの名前 > の <フローまたはオペレーション/構 成 アイテムの種 類 > にすでに存 在します。

このエラーメッセージは、デプロイしようとしているコンテンツパックに含まれるフロー、オペレーション、または構成アイテムの UUID が、デプロイメントユニットにデプロイされている別のコンテンツパックのアイテムの UUID と同じである場合に表示されます。

解決策:

- 1. Studio で、指定された UUID を持つフロー、オペレーション、または構成アイテムを検索します。
- 2. フロー、オペレーション、または構成アイテムを同じプロジェクトにコピーします。
- 3. その同じプロジェクト内のフロー、オペレーション、または構成アイテムの元のコピーを削除します。
- 4. [コンテンツパックの作成] を選択して、コンテンツパックを再デプロイします。

注: コンテンツパックのコンテンツを手動で編集しないでください。

プロパティ <content.pack.name/content.pack.version> がプロパティファイル contentpack.properties にありません。

このエラーメッセージは、コンテンツパックの名前またはバージョンがコンテンツパックのプロパティファイルにない場合に表示されます。

解決策:

Studio に移 動し、[**コンテンツパックの作 成**] を選 択して、コンテンツパックを再 デプロイします。

この操作を実行するためのアクセス許可がありません。

このエラーメッセージは、該当する操作を実行するアクセス許可がないユーザーとしてログインしている場合に表示されます。

解決策:

適切なアクセス許可を持つユーザーとしてログインします。または、該当する操作を実行するアクセス 許可をユーザーに与えるように、管理者に依頼します。

サービスは利用できません。サーバーがダウンしているか、ビジー状態であるか、ネットワークの問題が発生しています。サーバーログで、デプロイメントステータスを確認してください。

このエラーメッセージは、サーバーがビジー状態で要求を処理できないか、メンテナンスのためにダウンしているか、何らかのネットワークエラーによってレスポンスがクライアントに到達できない場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、デプロイメントが開始または正常に終了しなかったか、失敗したかどうかを確認してください。

<サーバーのレスポンスステータス (内 部 サーバーエラーなど)>。 詳 細 についてはサーバーログを確 認 してください。

このエラーメッセージは、サーバーから予期しないエラーステータス ("Out of memory" など) が返された場合に表示されます。

解決策

サーバーログで、例外の発生を確認してください。

エラーが発生しました。詳細についてはサーバーログを確認してください。

このエラーメッセージは、サーバーから予期しないエラーステータスが返されたが、エラーステータステキストを受信しなかった場合に表示されます。

解決策:

サーバーログで、例外の発生を確認してください。

コマンドラインからの HP 00 コマンドの実行

■ Operations Orchestration Shell (OOSH) を使用すると、Central Web インタフェースからでなく、コマンドラインから HP OO コマンドを実行できます。これにより、コマンドを実行するスクリプトを作成し、HP OO プロセスを自動化できます。

次のような操作を実行できます。

- フローの実行
- コンテンツパックのデプロイ
- ファイルの管理 インポート、アップロード、削除など
- フロー情報の表示
- システム構成の管理

```
oosh version: 1.25-SNAPSHOI

Welcome to oosh. For assistance type "help" then hit ENTER.

oosh\connect --url http://16.59.62.205:8293/oo/
connected

oosh\finfo --uuid ble8dfa0-b975-41c7-84ac-249565aa8dda

FlowInfo

Flow ID (UUID): ble8dfa0-b975-41c7-84ac-249565aa8dda

Name : Connectivity Test
Content pack : HF00-oo-base (1.0-SNAPSHOI)

Description :
Checks to see whether or not a connection exists, and if it exists checks to see

if it is adequately reliable.

Inputs:
host - The host to ping
from.
username - The username for host.
password - The password for
host.
lossThreshold - What percentage of packet loss you consider to be acceptable for this connection.
latencyThreshold - How long (in milliseconds)
you consider to be an acceptable latency for this connection.
target - The
host to ping.
characterSet - The character encoding of the target computer.
The default is the RAS machine's default encoding.

Responses:
success -
```

OOSH ユーティリティで使用できるコマンドの詳細なリスト、および各コマンドで使用できるオプションについては、「参照情報」セクションを参照してください。

注: OOSH ユーティリティからアップグレード に関連 するコマンドを呼び出 すユーザーは、それに対応 するアクセス許 可を持っている必要 があります。

注: OOSH ユーティリティは Java 1.7 で動作します。

コマンドの実行

OOSH ユーティリティ内 または通常 のプロンプト/シェルからコマンドを実行することができます。

通常のプロンプト/シェルからコマンドを実行する場合は、c:\hpoo\central\bin> oosh.bat <command> と入力します。

例:

c:\hpoo\central\bin> oosh.bat exec --uuid ABC --user ABC --pass ABC --url ABC

注: HP OO 10.00 では、HP OO 9.x で使用していた RSFlowInvoke および JRSFlowInvoke の代わりに、このユーティリティを使用します。

実行する操作

Central サーバーへの接続

OOSH をシェルモードで実行している場合、connect コマンドを使用して Central サーバーに接続できます。

その他 すべてのコマンドは、url、user、pass の基本的な接続プロパティをサポートします。 これにより、最初に connect コマンドを使用せずとも、コマンドラインから直接これらのプロパティを呼び出すことができます。

connect コマンドにはその他のオプションもあります。 HTTP プロキシ経 由 での接続も可能です。

connect コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、「参照情報」セクションを参照するか、コマンドラインで help connect と入力してください。

- 1. oosh.bat バッチファイルをダブルクリックし、OOSH ユーティリティを起動します。
- 2. コマンドラインで次のように入力します(例)。

connect --url <Central サーバーの URL>

3. **Enter** キーを押します。

接続が成功すると、コマンドラインに次のように表示されます。

Connected

フローに関する情報の表示

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します。

finfo --uuid <フローの UUID>

注: フローの UUID は、[フローライブラリ] 情報パネルに表示されます。

2. **Enter** キーを押します。

フローの情報がコマンドラインに表示されます。

フローの実行

exec コマンドでは、--user、--pass、--url などのオプションを使用できます。 exec コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、「参照情報」セクションを参照するか、コマンドラインで helpexec と入力してください。

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します(例)。

exec --uuid <フローの UUID>

2. Enter キーを押します。

コンテンツパックのデプロイ

このコマンドは、Central サーバーへのアクティブな接続がある場合にのみ動作します。 deploy コマンドで使用できるオプションの詳細なリストについては、「参照情報」 セクションを参照するか、コマンドラインで help deploy と入力してください。

1. OOSH ユーティリティのコマンドラインで、次のように入力します(例)。

deploy --url <00 Central の URL> --files <デプロイするファイルのコンマ区切りリスト>

2. **Enter** キーを押します。

OOSH ユーティリティに関するヘルプの表示

OOSH ユーティリティで使用可能なすべてのコマンドのリストと説明を表示するには、次のように入力します。

help

特定のコマンドに関するヘルプを表示するには、次のように入力します。

help <コマンド>

例:

help exec

OOSH ユーティリティから OO コマンドを実行するスクリプトの作成

- 1. スクリプトを作成するには、実行する OOSH コマンドを記述した簡単なテキストファイルを作成します。各コマンドを実行する順にそれぞれ別の行に記述します。
- 2. スクリプトを実行するには、OOSHで script コマンドを使用します。例:

script --file< スクリプトファイル名>

実行可能ファイルのパーサーとしての OOSH の追加

Linux でのみ、OOSH を実行ファイルのパーサーとして追加することもできます。

1. たとえば、次のように script-a というファイルを作成します。

#!/<インストールディレクトリ>/oosh <コマンドシーケンス>

2. このファイルに対して chmod (アクセス権限の変更) を実行します。

chmod 755 script-a

3. このファイルをコマンドラインから実行します。

./script-a

参照情報

OOSH ユーティリティで使用可能なコマンド

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
connect		OO Central サーバーに接続します		
	url	OO Central の URL		はい
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	pass	OO Central パスワード		いいえ
	proxyhost	接続時に経由する http プロキシホスト		いいえ
	proxyport	接続時に経由する http プロキ シポート	8080	いいえ
	proxyuser	接続時に使用する httpプロキシューザー		いいえ
	 proxypass	接続時に使用する http プロキシパスワード		いいえ
deploy		コンテンツパックをデプロイします (アクティブな接続が必要)		
	url	OO Central Ø URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用して でに Central に 接続合は 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	files	デプロイするコンテンツパックの コンマ区 切 りリスト		はい
disconnect		OO Central サーバーから 切断します		

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
exec		フローの実行		
	url	OO Central <i>σ</i> URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使に Central に 接続合は 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	uuid	実行するフローのUUID。例: cd38b579-4220-4fa5-bafd- 78d67f73eb6f		はい
	inputs	コンマ区 切りのキー=フローの入 カの値のマップ。 例: key1=value1、key2=value2		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
track		特定の実行に関する情報 を表示します(追跡)		
	url	OO Central <i>σ</i> URL		はい (ただ し、 connect コマンド 使用 でに Central に 接続合 除ぐ)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	id	実行 ID		はい
	property	特定のプロパティを表示します (デフォルト: all)。 使用可能なプロパティ: executionId、executionName 、status、resultStatusType 、resultStatusName	all	いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 /動作	必須
finfo、flow-info		特定のフロー実行に関する 情報を表示します		
	url	OO Central の URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用 でに Central に 接続合 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	property	特定のプロパティを表示します (デフォルト: all)。 使用可能なプロパティ: id、name、path、description 、cpName、version	all	いいえ
lcp, list- content- packs		接続されているサーバーに 現在 デプロイされているすべての コンテンツパックをリストします		
	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい (ただ し、 connect コマンドし 使に Central に を 続く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
lsc、list-sys- config		システム構 成 をリストします		
	url	OO Central Ø URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使に Central に 接続合 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	key	特定のキーの 値のみを要求するようにします		いいえ
ssc. set-		システム構 成を設定します		
sys-config	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい (ただ し、connect コマア サーでに Central に を 場ぐ)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	key	システム構成キー		はい
	value	システム構 成 値	空の文字列	いいえ
show connection		接続プロパティを表示します		

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
historical- data-start- date		履歴データのインポートの 開始日を設定します		
	url	OO Central の URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使に Central に 接続合 除ぐ)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	date	インポートの開始日 (形式: dd/MM/yyyy)		はい
historical- data-status		履歴 データのインポートのステータスを取得します		
	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用 でに Central に 接続してい る除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
import- historical- data		9.x サーバーで定義されたデータを 持つデプロイ済みコンテンツの 履歴データをインポートします		
	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい(ただ し、 connect コマンドを 使に Central に 接続してい る除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
import- permissions		アクセス許 可 ファイルを 持 つデプロイ済 みコンテンツの アクセス許 可 をインポートします		
	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用して Central に 接続してい る場合 除ぐ)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
import- schedules		9.x サーバーで定義されたスケジュールを 持つデプロイ済みコンテンツの スケジュールをインポートします		
	url	OO Central <i>Φ</i> URL		はい(ただ し、 connect コマンドを 使に Central に 接続合 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
permissions- status		これまでにインポートされたすべ ての アクセス許 可 のリストを取 得しま す		
	url	OO Central の URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用して Central に 接続してい る場合 除ぐ)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	output	出力を書き込む 場所の完全なパス		いいえ

コマンド	引数	説明	デフォルト値 / 動作	必須
upload- permissions- file		コンテンツのアップグレード 中に 作成されたアクセス 許可ファイルをアップロードします		
	url	OO Central Ø URL		はい (ただ し、 connect コマンドを 使用してす でに Central に 接続してい る場合は 除く)
	user	OO Central ユーザー名		いいえ
	password	OO Central パスワード		いいえ
	file	アクセス許 可 ファイルへの完全 なパス		いいえ



